

第二次美祢市総合計画

基本構想

(素案骨格案)

平成 30 年 3 月
美祢市

はじめに

第1章 序論

1. 計画策定の趣旨

平成 20 年に美祢市、美東町、秋芳町が合併し誕生した新「美祢市」を取り巻く社会経済環境は、少子高齢化、情報化、国及び地方公共団体における財政状況の悪化等様々な問題と変革期を迎えていました。

その中で、地方分権時代に対応した地方公共団体としての自主性・自立性を高め、簡素で効率的な行政運営の確立と行政基盤の強化を図り、市民の誇りと自信の醸成を図るため、基本理念を「市民が夢・希望・誇りをもって暮らす交流拠点都市美祢市」とし、目標の都市像を「交流拠点都市～観光立市～」の創造とし、個性のあるまちづくりを進めてきました。

この間、平成 24 年 7 月に開設した美祢市台北観光・交流事務所をはじめとした「国際交流の推進」、独自の基準により特産品を「Mine Collection」として認定するなどの「六次産業化の推進」、及び地域の自然や文化の成り立ち、仕組みを楽しみながら学ぶ「ジオパーク活動の推進」を図って参りました。

一方、深刻化する人口減少や少子高齢化問題、各地での大規模災害の発生、情報化社会のめまぐるしい進展等、当市の財政を取り巻く環境が見通せない状況となっています。

このような社会経済環境と新市 10 年間の総括を踏まえ、現総合計画を基本としながらも、社会経済情勢の変化や新たな市民ニーズへの対応など、現在市が抱える課題に的確に対応するとともに、今後の持続可能なまちづくりに向けての基本指針として、平成 32 年度(2020 年)からスタートする第二次美祢市総合計画(以下、「新総合計画」という。)を策定します。

新総合計画では、現総合計画基本構想の「交流拠点都市」を更に前進させるため、市民参画を今以上に推し進め、より市民のまちづくりとなることを念頭に計画策定を行います。

2. 計画の概要

(1) 位置・地勢

3. 社会潮流と美祢市の現状

(1) 社会潮流

① 人口減少社会

② 超高齢化社会

③ 少子化時代

④ 広域連携

(2) 美祢市の現状

① 本市の強み・弱み・機会・脅威

② 公共施設

③ 財政状況

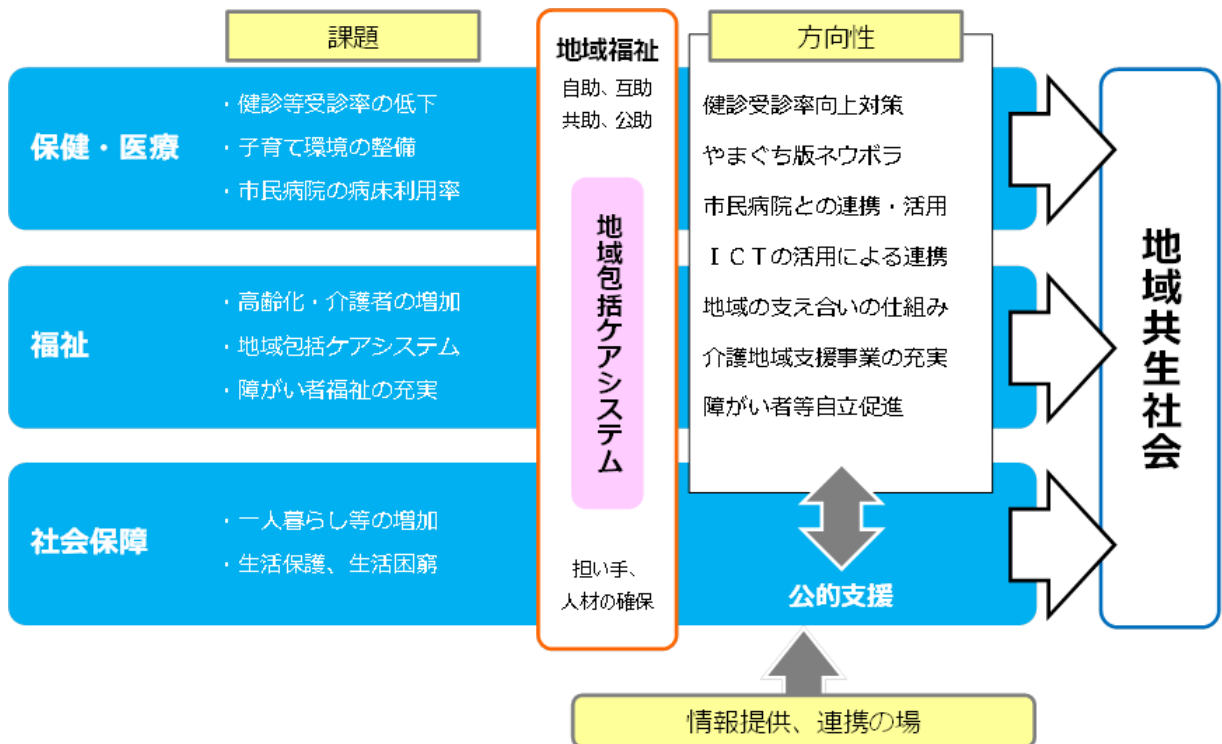
4. 第一次美祢市総合計画後期基本計画の総括評価と方向性

(1) 安全・安心の確保

① ひとにやさしい医療・福祉が充実したまちづくり

市民アンケートでは、保健・医療サービスの重要度は高い一方、満足度は低い状況にあり改善が必要です。健康づくり及び健診等の受診率の向上及び市立病院の利活用向上を図る必要があります。

福祉においては、人口減少が進む中、行政施策だけでなく、地域福祉の今後を見据え、「自助・互助・共助・公助」の体制づくりが急務となります。そのために、「地域包括ケアシステム」のより深い連携は欠かせないものとなります。また、地域が多様な世代や団体等と結びつき、出産しやすい環境づくり、子育てしやすい環境づくりが重要です。

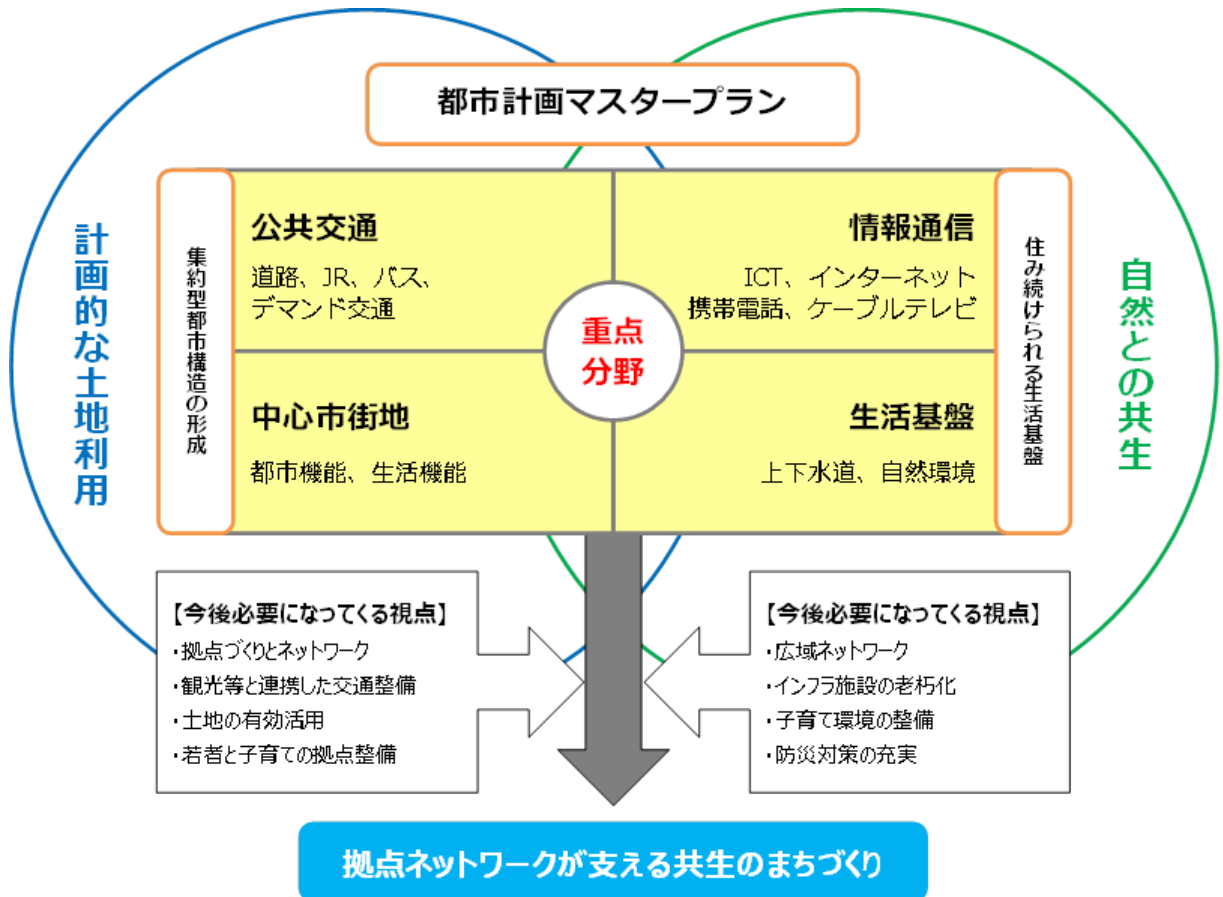


※ネウボラ

妊娠期から就学期までの健康診断や保健指導、予防接種を行い、子育てに関する相談や他の機関との連携を図り、妊娠期から就学期まで切れ目なく支援する場の総称

② 市民生活の基盤が充実した、自然と共生したまちづくり

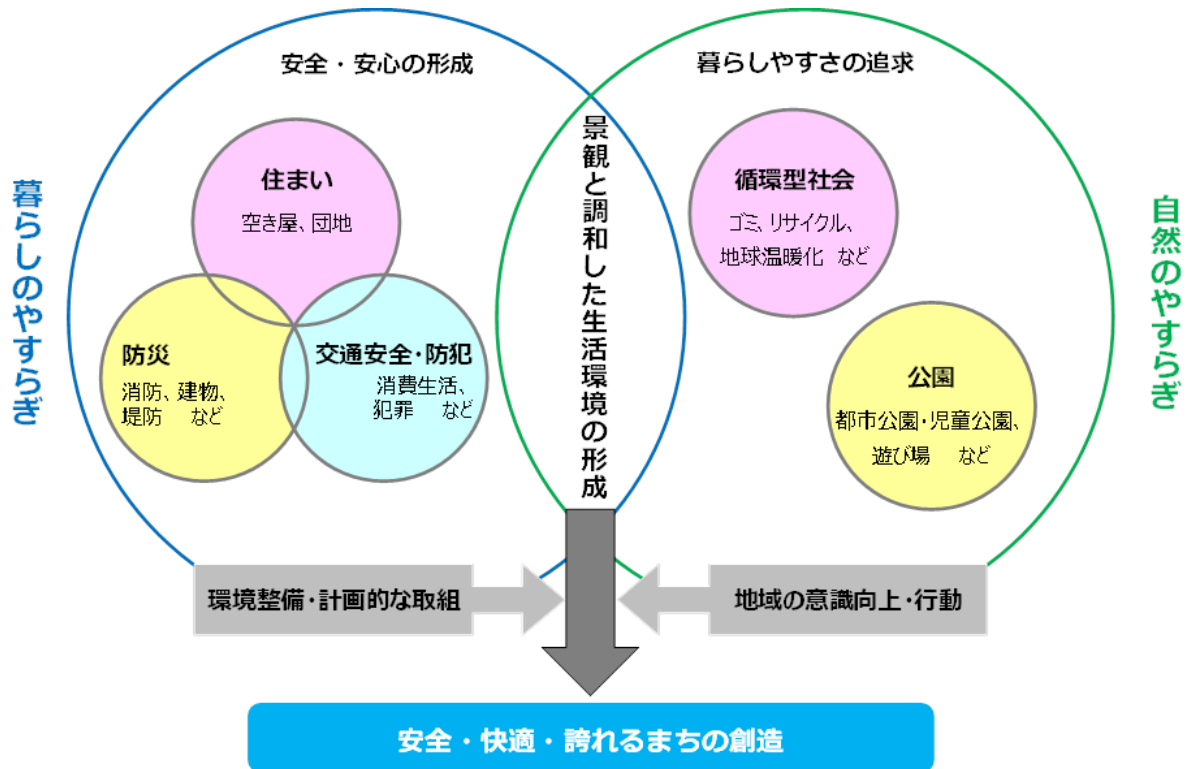
人口減少が進む中で広大な面積を持つ本市においては、都市計画マスタープランで位置付ける都市拠点、地域拠点を核とした快適で便利な生活基盤を確立していく必要があります。また、超高齢化社会の進行する中で本市にあつては、拠点を結ぶ公共交通の新たな仕組みづくりと必要不可欠な生活関連サービスの集約が必要です。更には、定住者確保の観点や安全・安心の確保など情報通信分野の整備が不可欠です。



③ 誰もが安心して住める、やすらぎのあるまちづくり

子どもから高齢者までが安全で安心して暮らせる生活環境をより改善し、定住促進につなげていく必要があります。近年の課題として、空家の増加、頻発する大規模災害への対策、消費者や高齢者の安全対策が求められています。

また、社会が求める循環型社会をより促進させるとともに、住みたい、住み続けたいという地域ぐるみの取組や、若者や子育て世帯が求める都市公園など環境整備の取り組みも急務です。



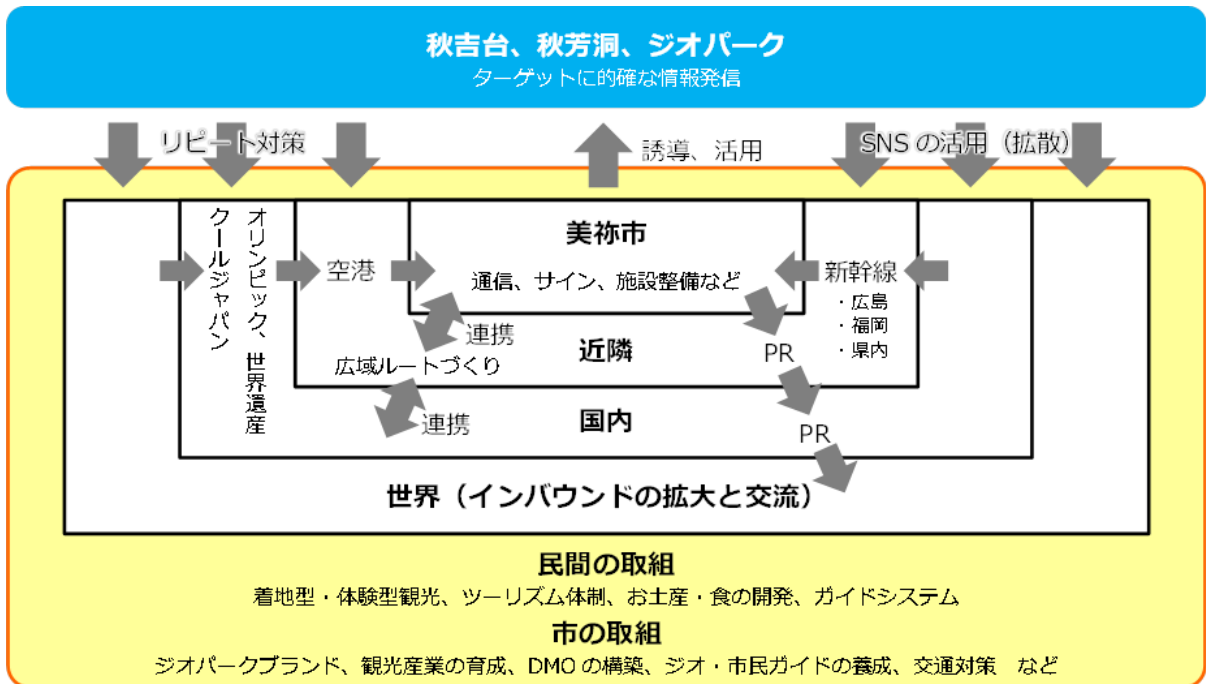
(2) 観光交流の促進

市民アンケートでは、観光振興に対する重要度は高いものの、満足度の低い状況にあり、市が推し進めるジオパーク活動や国際交流等の重要性の理解が進んでいない状況にあります。

秋吉台、秋芳洞、ジオパークなど美祢市特有の資源を最大限活かし、着地型・体験型ツーリズムやスポーツツーリズムを推し進め、交流人口の拡大による経済効果を生み出すことで満足度の向上につなげる必要があります。特に、外国人観光客や体験型教育旅行などターゲットを絞った戦略や都市圏への的確な情報発信、及び広域連携が重要です。

さらには、本市のブランド力向上を図るため、施設整備をはじめジオツーリズムなどの体制整備、交通環境の構築が急務です。

これらを一体的に推し進める中で、美祢市観光協会の強化と観光関連産業の連携を図る中でDMOの構築を急ぐ必要があります。また、官民連携した食の開発やお土産品開発など観光産業の育成を急ぎ、農業など他産業や地域との連携を図りながら観光経済の循環を図ることが重要です。

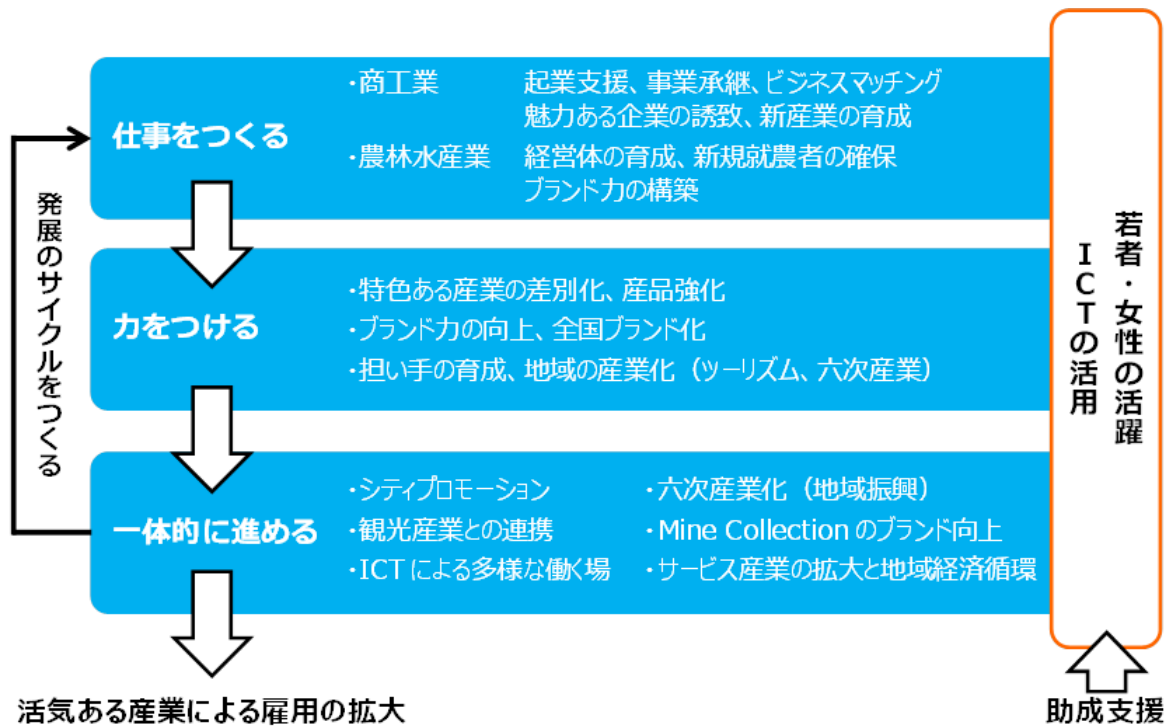


(3) 産業の振興

商工業の振興、農林水産業の振興は、市民にとって重要度が高く満足度の低い結果となっています。また、人口減少に伴い生産性人口の減少が深刻化してきます。更には、本市では若年層の多くについて、仕事などを求め市外・県外への転出傾向が顕著です。

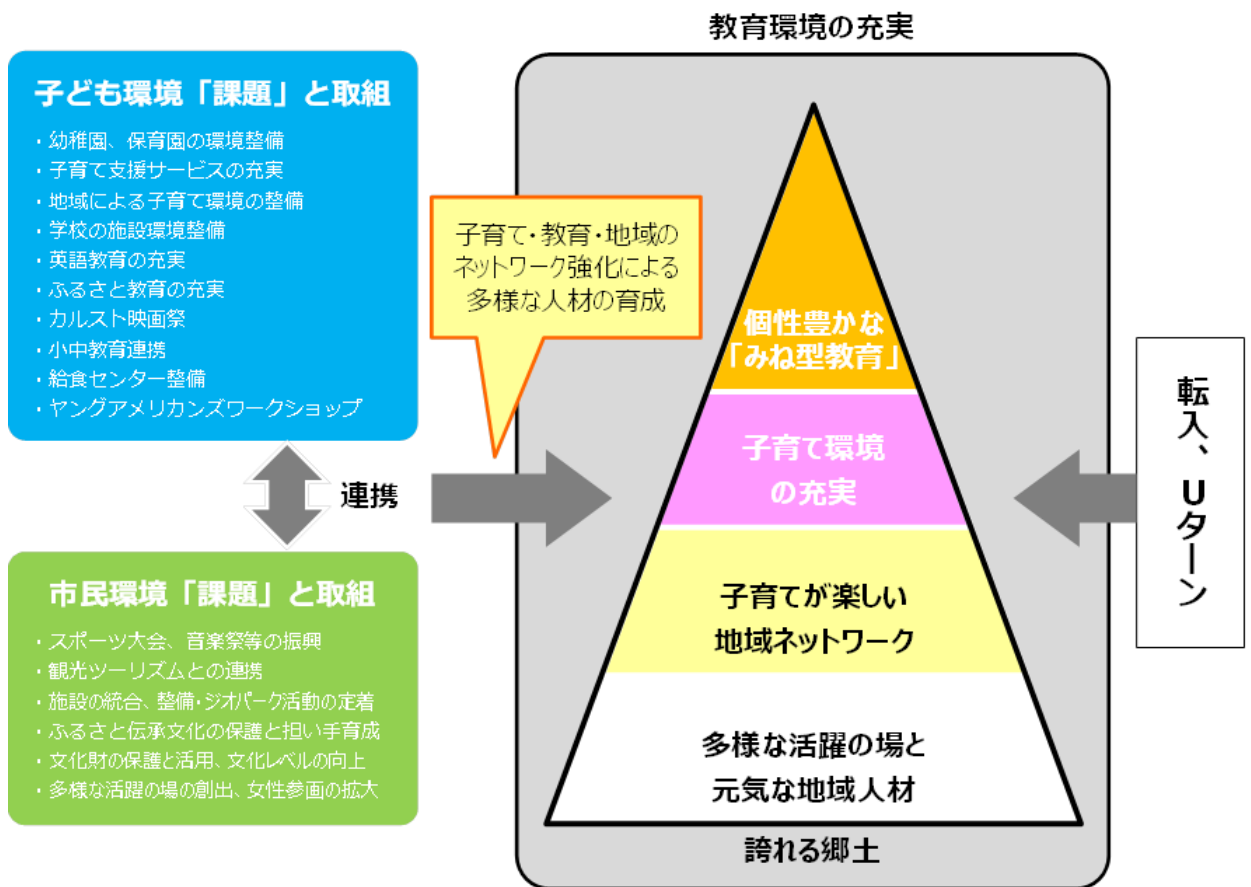
そうした本市における高齢化や社会減少が続く中、新たな企業の誘致や起業家の育成による産業面からの地域の活性化は欠かせません。特に美祢市の大きな柱のひとつである観光と産業を密接に結びつけ、“美祢市ならではの”魅力的な産業を支援していくとともに、若者や女性が、美祢市の産業になじめる環境をつくっていくことが重要です。

特に商工業や農林水産業などを活性化させて新たな仕事をつくり、生産力、製造力の強化とともに、適宜連携し合い一体的に産業を振興させていくことで、市と産業の安定した発展につなげていく必要があります。



(4) ひとの育成

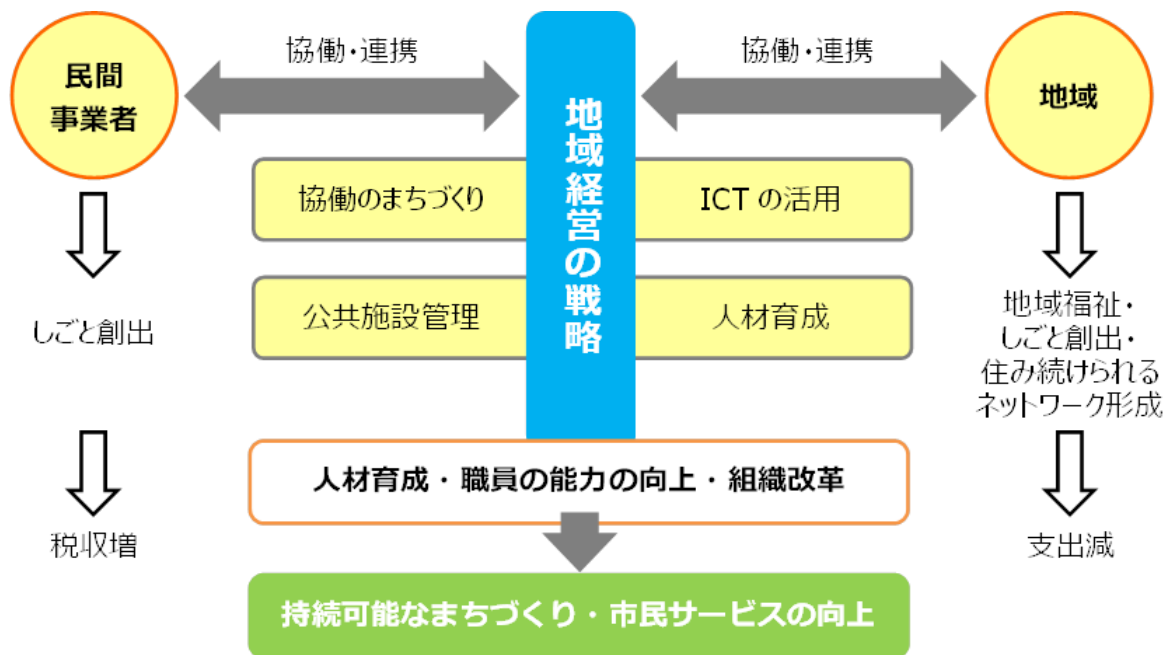
少子化が進行し、本市の出生率は極めて低い状況にあります。よって、安心して出産し子育てや教育ができる環境整備を急ぐ必要があります。また、誇れる本市の魅力を伝えるためにふるさと学習を押し進めるほか、グローバルな人材を育成することなど教育環境の充実が重要です。市民活動においては、拠点整備を行う中でスポーツや文化の振興を図る必要があります。特に、本市の文化財の保護と活用や生涯学習、地域振興の取り組みなど、市民が誇りと生きがいに満ちた活動の場をつくることが重要です。



(5) 行財政運営の強化

市民アンケート調査では、「行財政運営」「機構改革」「行政サービス」「市職員の能力向上」において、いずれも重要度が高く満足度の低い結果となっています。

少子高齢化、人口減少が急速に進行している中、今後も持続可能なまちづくり、市民サービスを維持するため、行政改革の一層の推進により、行財政基盤の安定を図る必要があります。その中でも地域との「協働のまちづくり」「ICTの活用」「公共施設管理」「人材育成」「新たな自主財源の確保」などが喫緊の課題です。



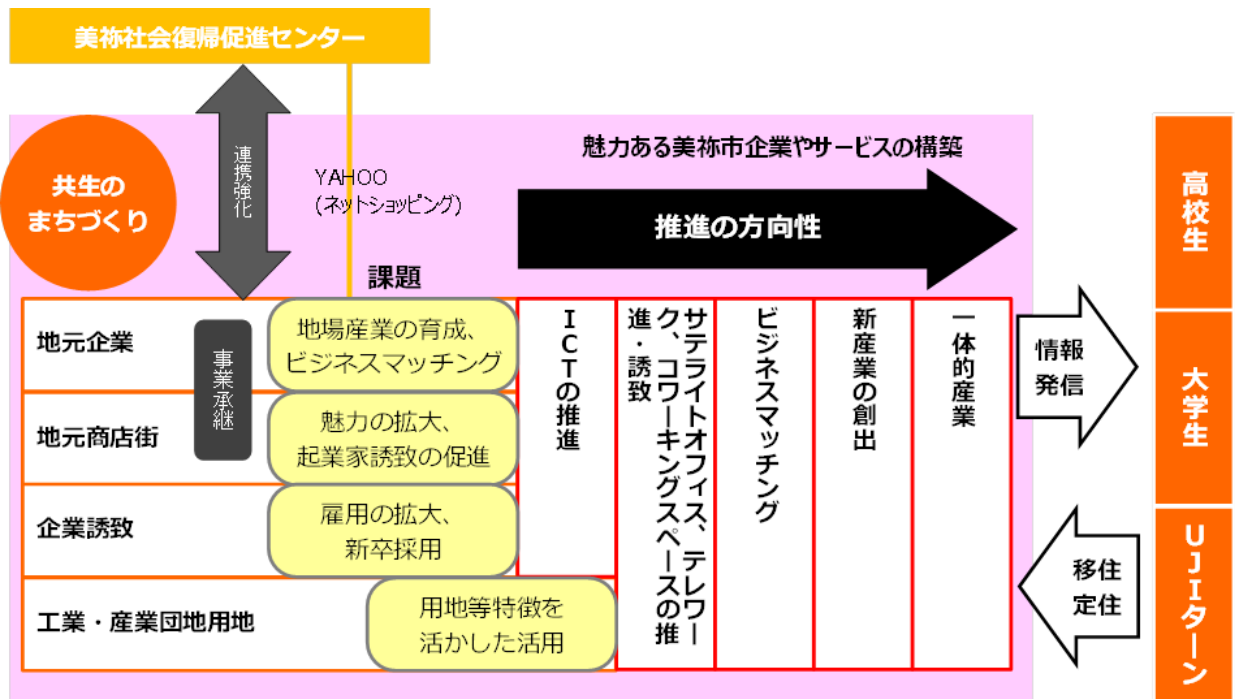
5. まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括評価と方向性

(1) 美祢市の資源を活用した「雇用をつくる」

① 共生がつなく仕事づくり

美祢社会復帰促進センターと企業との連携は外部通勤作業が始まり、また、ヤフー(株)等との連携事業が開始されました。今後、更に市内外企業と連携しながら雇用等につながる具体的な取組を発展させていくことが重要です。また、企業誘致や市内企業への就労促進などは、ビジネスマッチングによる事業拡大や新たな事業展開などにより、企業体質の強化が必要になります。

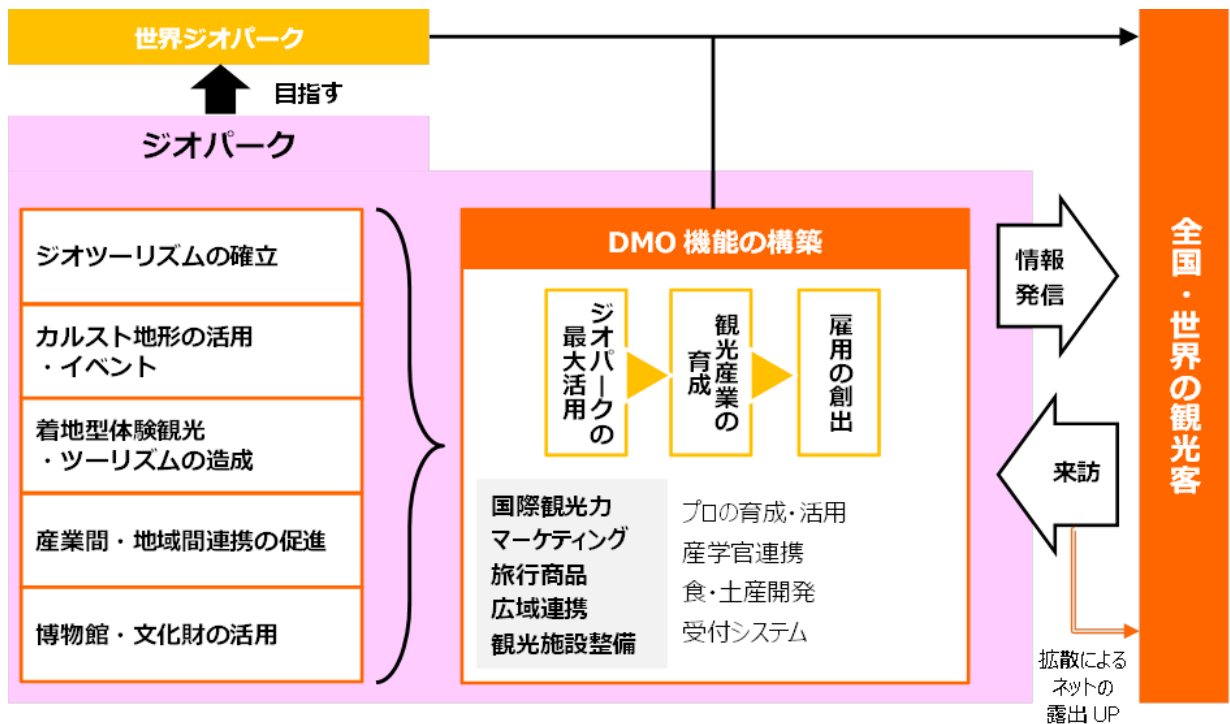
今後、起業家に対し積極的な支援に加えて ICT などを活用した地方での新たな働く場やスタイルへの支援を検討していく必要があります。



② 観光立市を牽引する産業・雇用の創出

秋吉台や秋芳洞、ジオパークという資源を活かし、魅力あるコンテンツづくりや情報発信に努めながら、スポーツ・アウトドアの展開を促進させ、リピーターとなる“美祢市ファン”の増加を目指す必要があります。外国人観光客等の増加を目指すため、商店街も含めた受入環境整備が急務です。

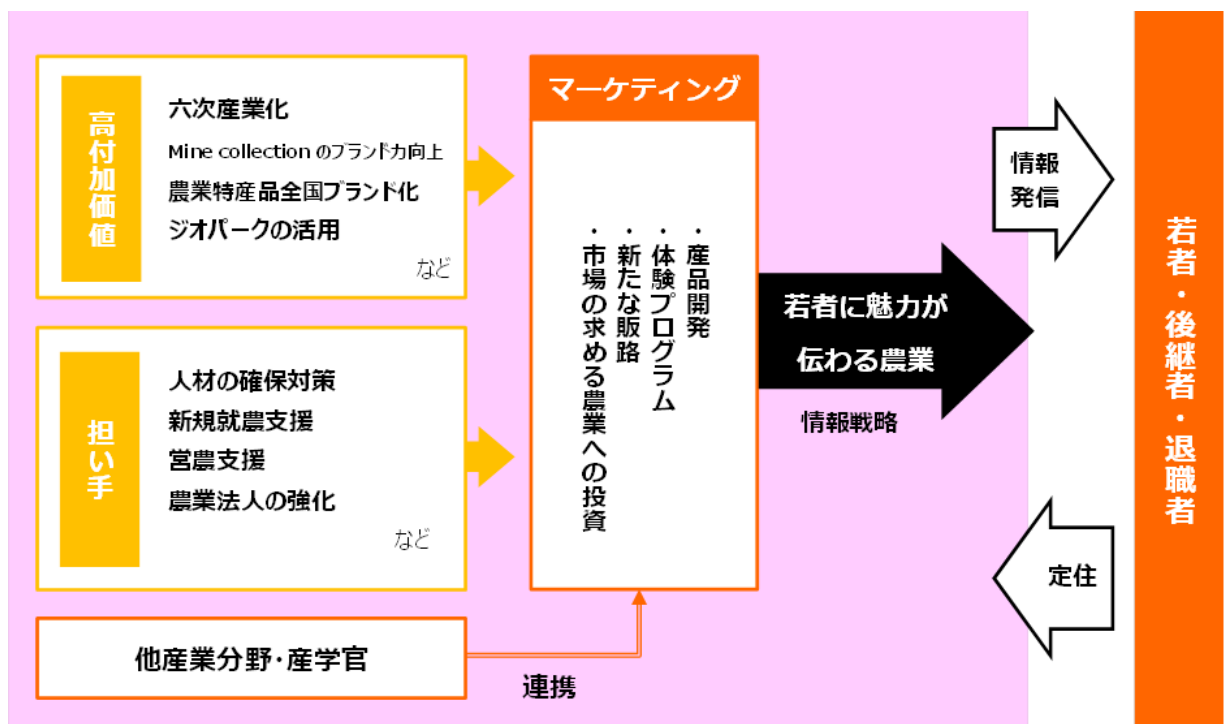
地域に経済の流れを生み出す着地型・体験型観光が優先課題となっています。マーケティング等の手法を用いながら観光を軸に全産業が結びつき地域経済を活性化し、地域の関係組織や団体、事業者等をまとめられる“DMO 機能”を備えた役割を整理することが求められています。



③ 農林資源の高付加価値化による雇用の創出

本市のブランドを牽引する厚保栗・秋芳梨・美東ごぼう等主力農産物を全国的なブランドに押し上げる等戦略的に推し進め、農業の活性化と担い手の確保を目指す必要があります。また、そういった地域ブランドを土産品や地域での食の開発に繋げていくことは、観光においても非常に重要な役割をもっています。さらには、ミネコレクション認定の基準を強化することでブランドイメージを向上させ、高い商品力のもとで、効果的な宣伝や販路の拡大に注力していく必要があります。

特に農業生産の拡大や加工品や食の開発を通じて観光との一体的産業を築くことは、地域に力と経済循環をもたらし、新たな雇用を生み出し田園回帰に繋がるため、これに向けた体制と環境整備が重要です。

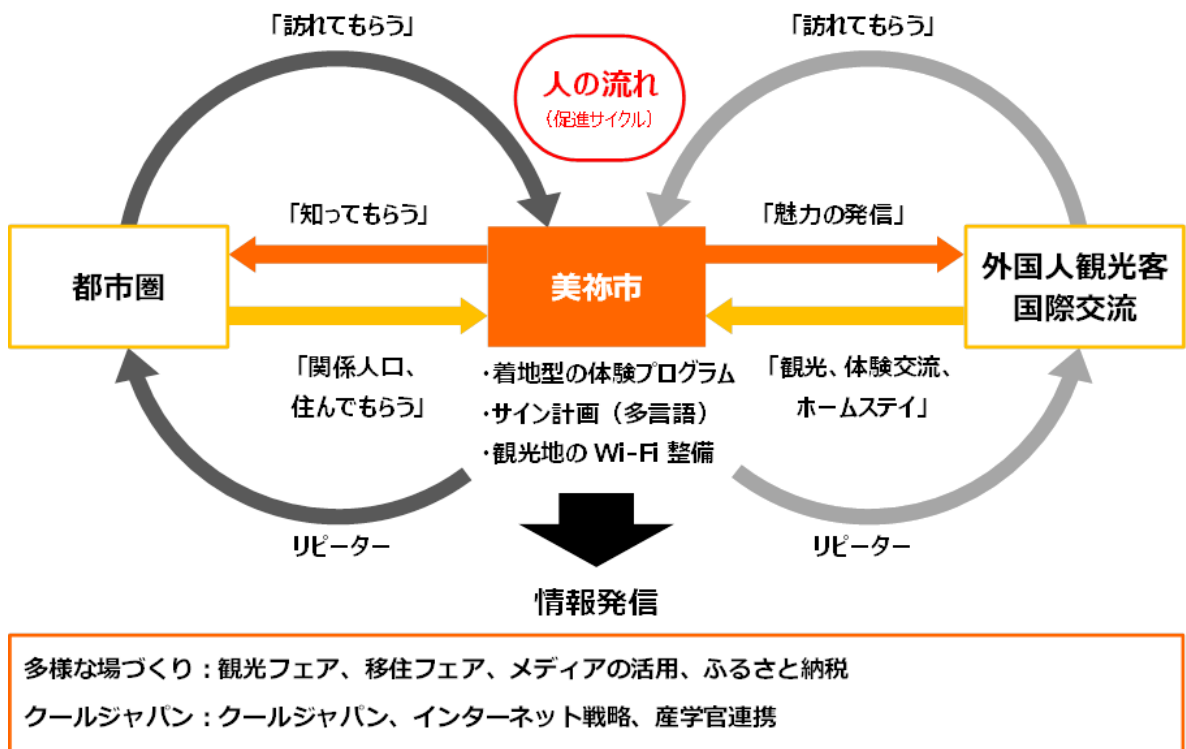


(2) 惹きつける魅力を活かした美祢市への「ひとの流れづくり」

① 美祢市の魅力が伝わるプロモーション活動

人口減少に歯止めをかけるため、交流人口の増加、関係人口の拡大、都会でのPR宣伝など移住者獲得対策と定住促進対策とを合せた環境整備が重要です。

都市圏や海外でプロモーション展開を図るためにも、秋吉台を中心としたツーリズムの強化、これまでの取組の事業拡大、体験型観光や魅力的な農林水産物など多様なジャンルの素材の磨き上げが重要です。また、一方で都会からの移住者や外国人を受け入れる市民の意識の醸成が必要なことから、地域をあげての受け入れを促進することが発信力の強化につながります。

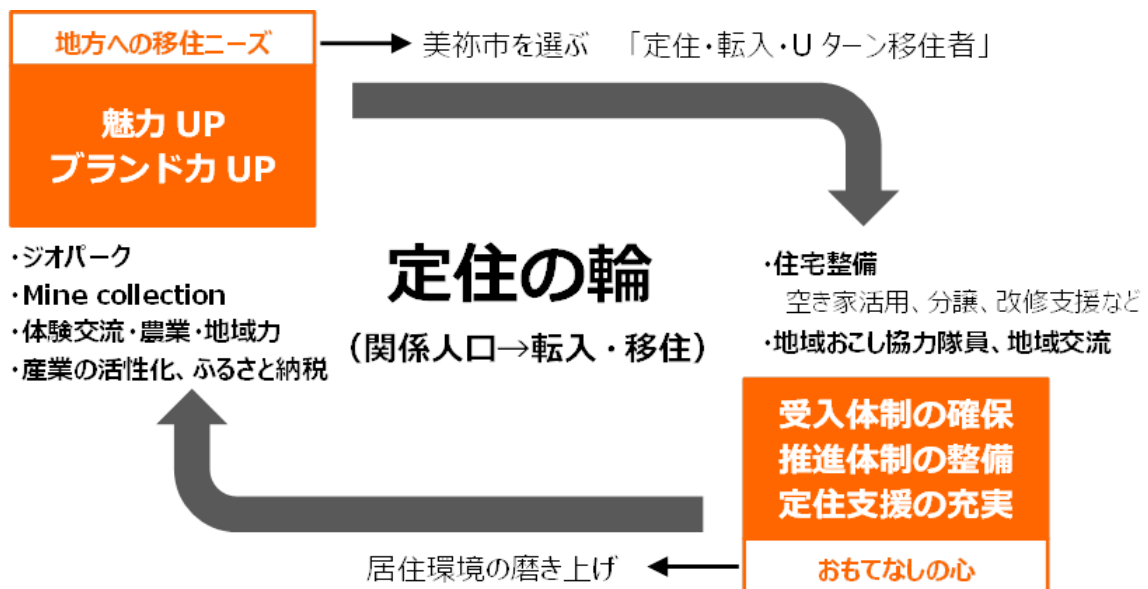


② 住みたいと思わせる、おもてなしの提供

ジオガイドや受付システム等体制の整備により、新しい魅力を打ち出すとともに、ミネコレクションとふるさと納税との連携強化を図るなど、今後より一層の充実が必要です。特に、秋吉台の活用や農業と連携したスローツーリズムなど、美祢市の特徴を活かしながら地域と密に連携のとれた施策などが求められています。

移住・定住について、定住に関する住宅取得施策など一定の効果があり、転入・移住者に関しては空き家に需要があり、これら施策の継続と充実が求められています。

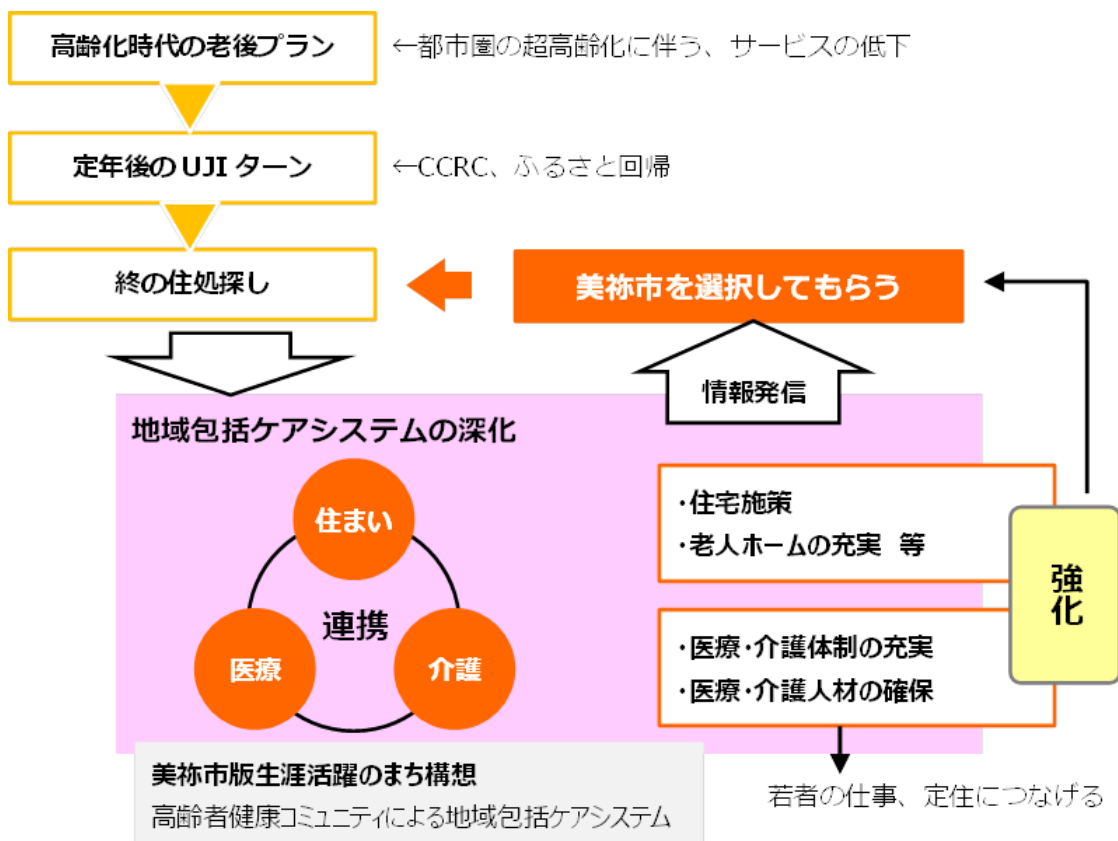
また、地域おこし協力隊員が各地域で活躍しており、更なる活動、定着及び隊員の拡大などを通じて都市圏との接触度を増やし移住促進に繋げる必要があります。



③ シルバー世代に選ばれる受け皿づくり

後期高齢者の増加が見込まれる中、高齢者を支える人材の確保とともに、働き盛り世代やファミリーなどを受け入れられる体制が重要です。シルバー世代だけに関わらず、だれもが住みよいと感じられる環境が提供できるよう、ターゲットや手法を絞り込み、より具体的な魅力の整理や伝え方を検討していく必要があります。

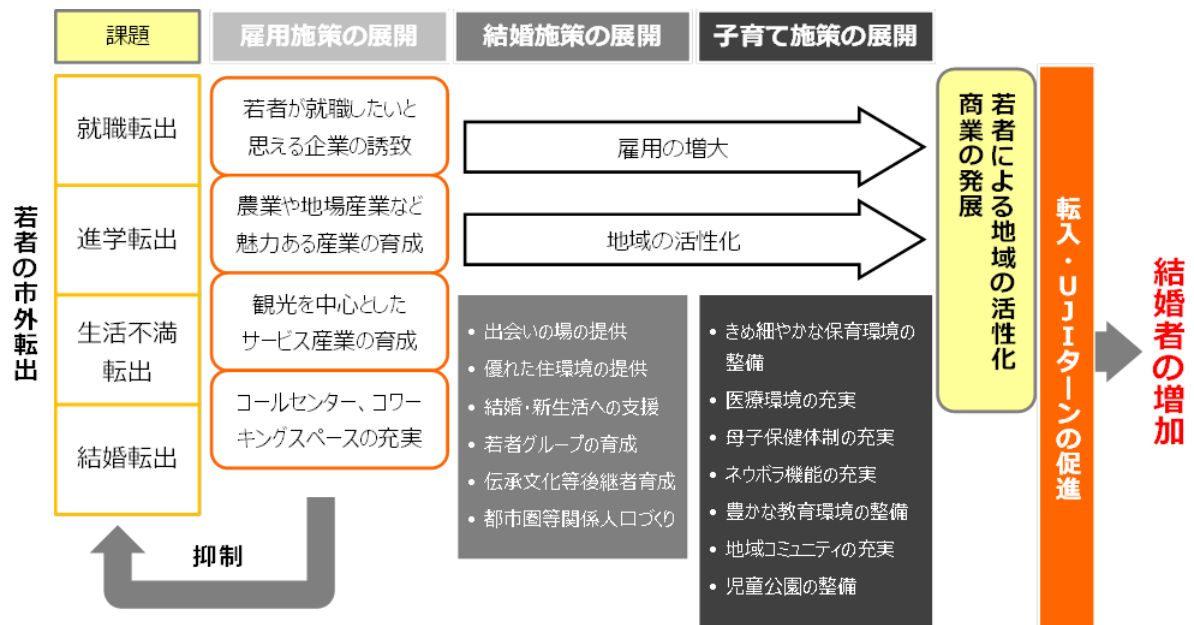
また、介護や医療を必要とする人も増加することから、専門人材の確保とともに、美祢市で受けられる「安心して満足いく介護・医療」を周知する必要があります。



(3) 美祢市で結婚・出産・子育ての希望がかなう環境づくりと「次世代の育成」

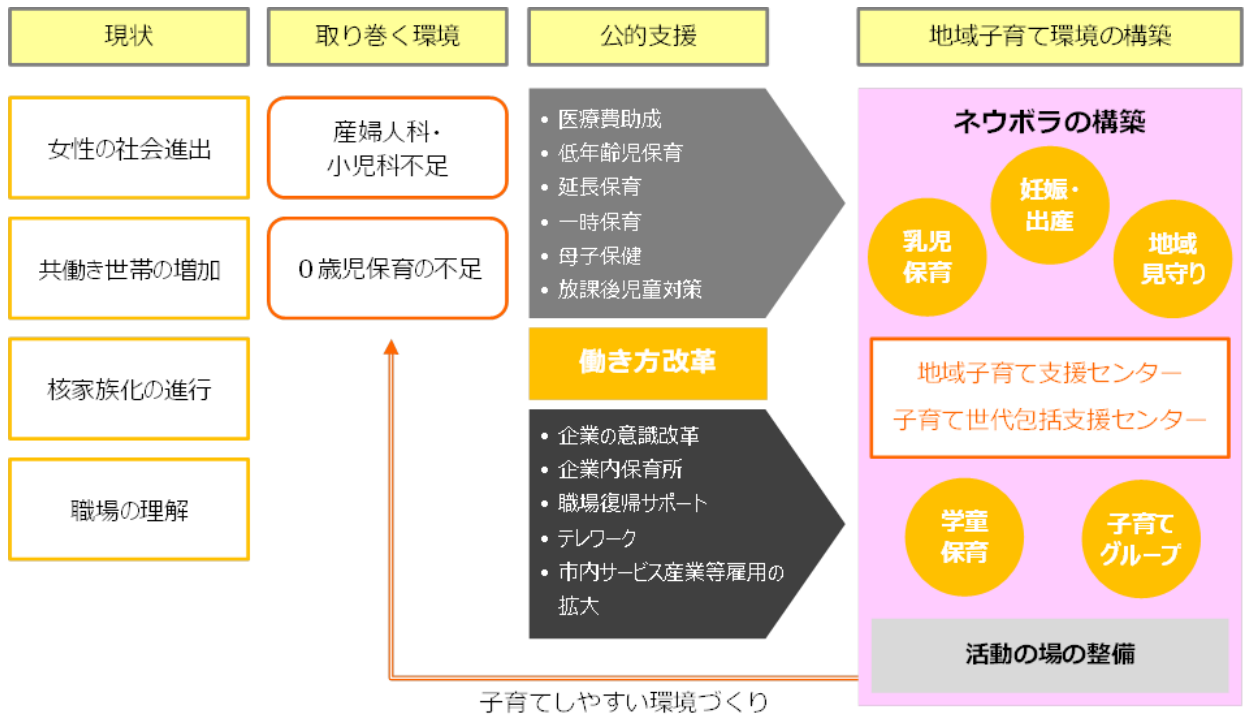
① 結婚へつながる、きっかけづくり

人口減少が進む中、本市での出生率が下降し、1年間に生まれる子どもの数は100人を下回ることが現実味を帯びてきました。今後、結婚年齢を迎えた人たちが本市で結婚するために必要と感じている雇用、住環境、子育て環境、暮らしの充実などの支援を見極め、より具体的に若者定住施策や結婚ニーズ対策を構築し、市内外に情報宣伝を行うことで、若者の定住とUJターンなどを促進し、本市での結婚を促進していく必要があります。



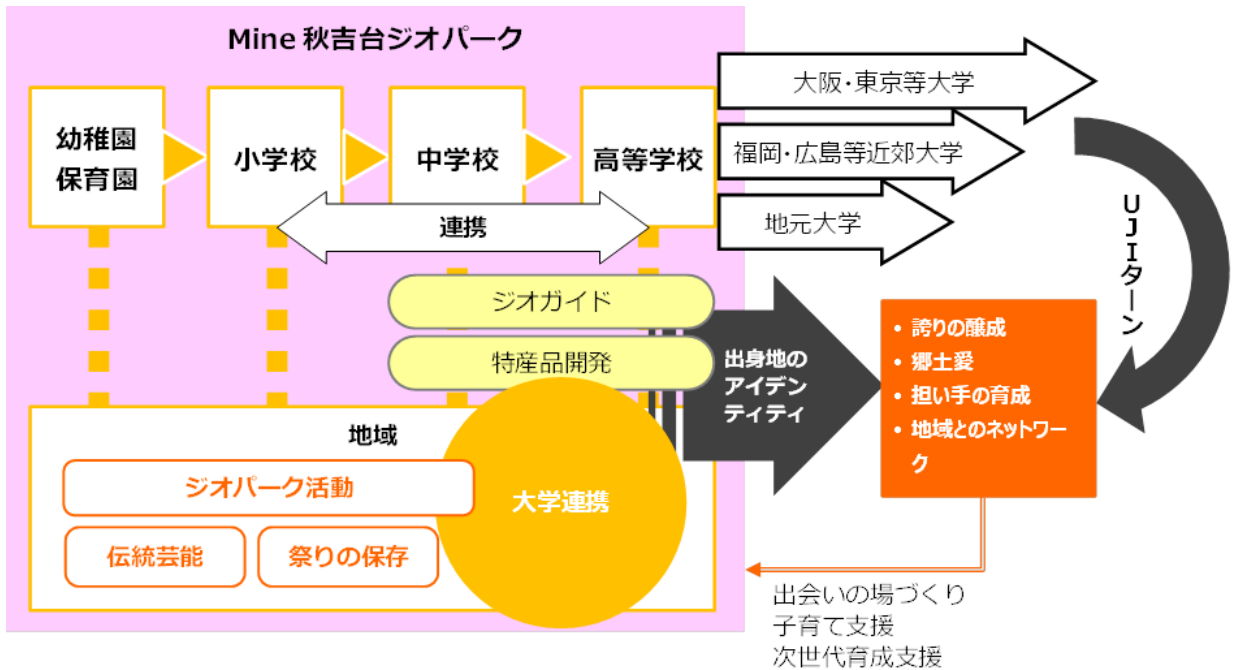
② 出産と子育てサポートできる地域づくり

夫婦共働き世帯の増加など女性の社会進出などによって、出産や子育てに対する考え方に変化が起こっており、働きながら子育てをする家庭の負担軽減はさることながら、ICTの活用による多様な働き方、企業の意識改革、市内の職場確保など働きやすい環境の充実を推し進めることが課題です。その上で、子どもたちが安全で安心していきいき育つ環境づくりのため、行政だけでなく、市民、関係団体、事業者など多様な主体が連携した地域が一体となった子育て環境と体制を確立する必要があります。



③ ジオパーク活動を通して育む郷土愛

ふるさと学習・ジオパーク学習を推進することで、特色を活かした充実した教育環境を創出し、本市に住む子どもの郷土に対する愛着や誇りを更に培うことが重要となります。引き続き、学校同士や学校と地域や大学などが一体となって教育に関わる体制を強化し、保育園・幼稚園、小学校から高校まで一貫した個性豊かな育ち・学びを促す環境をつくることで、本市で子育てをする魅力を拡大することが重要です。

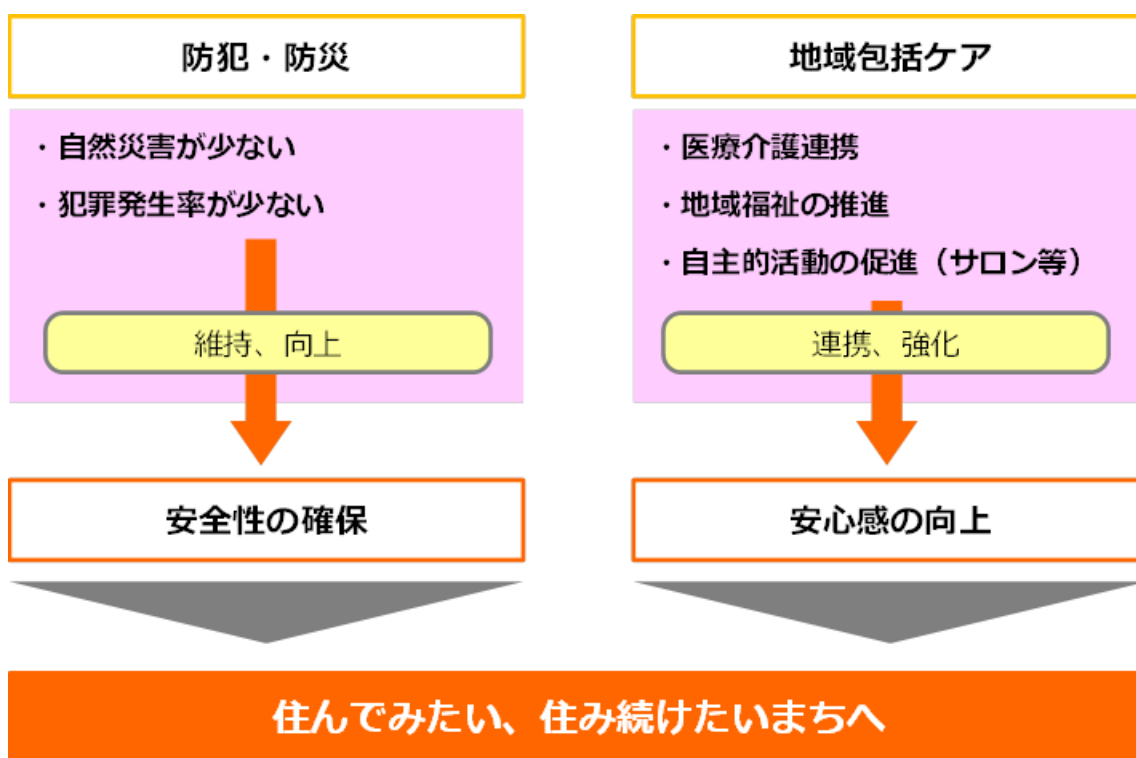


(4) 美祢市にずっと住みたいくなる「まちの基盤づくり」

① トップクラスの安全・安心なまちづくり

防犯・防災体制の強化においては、犯罪認知件数の減少や消防団員の増加、安全安心メールの登録件数の増加などがみられ、成果が上がっています。防災体制については情報伝達手段の多重化、多様化が必要となっており、併せて地域防災組織の構築が必要となっています。また、地域包括ケア体制においては、児童福祉分野、障害福祉分野等でも包括的な支援体制を構築し、誰もが安心して暮らせる地域を地域住民と共につくっていくことが求められています。

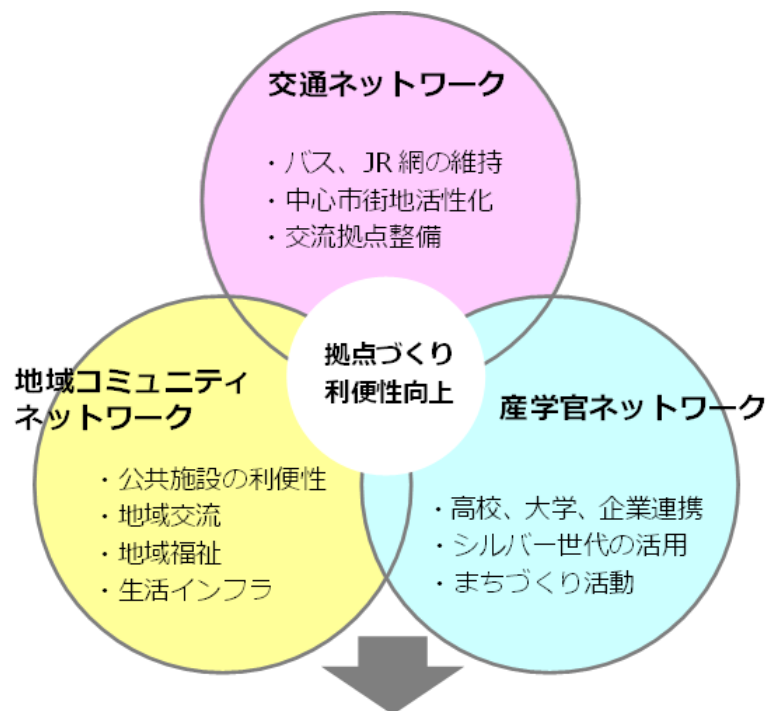
行政拠点や文化拠点だけでなく、地域包括支援センターや子育て世代包括支援センターなど、地域の核となる様々な支援拠点の整備も求められていることから、今後の人口の変化も見据えた都市機能等の集約、魅力ある拠点整備と公共交通を含めたネットワークを構築していく必要があります。



② 住み続けられるネットワークづくり

人口減少等により、今後も更に公共交通機関の利用が減少することが予測されるため、市民ニーズに合わせるとともに、観光利用の促進なども見据えた利便性を確保していくことが重要です。

都市機能等の整備は市民からみて進んでいないと感じられています。今後は、各拠点における都市機能の集積や公共交通ネットワークの有機的な連携を図るなど、集約型都市構造を整備していく必要があります。また、若者の移住・定住を促進していくうえで、先進的・専門的な視点を交えながら施策を推進する必要があるため、今後も官民協働の仕組みを確立していくことが大切です。



多様なネットワークの重なりにより、利便性の高い拠点づくりを推進

6. 市民の意識（各種市民アンケート結果）

（1）調査の目的

新総合計画の策定にあたり、市民の意識や施策ニーズ、中高生や新成人などのこれからの美祢市を担う若者の意見、また市のまちづくりの実践の場にいる市役所職員の思いなどを把握し、これからのより良いまちづくりの推進に向けた参考資料とするために調査を実施しました。

（2）調査概要

【市民アンケート調査】

調査対象者：平成30年10月1日現在、美祢市にお住いの18歳以上の方から無作為抽出

調査期間：平成30年10月18日～11月15日

調査方法：郵送による配布・回収

調査数：2,995名（住所不明で差し戻しがあった5通を除く）

有効回収数：1,213件（回収率40.5%）

※以下、「市民全体」の表記はこの市民アンケートによる全体集計の値を指します。

【中高生アンケート調査】

調査対象者：平成30年12月1日現在、すべての美祢市の中学2年生、高校2年生

調査期間：平成30年●月●日～平成31年●月●日

調査方法：学校による直接配布・回収

有効回収数：295件

【成人式アンケート調査】

調査対象者：平成31年1月美祢市成人式への参加者

調査方法：成人式会場での直接配布・回収

有効回収数：113件

【市職員アンケート調査】

調査対象者：すべての美祢市役所職員

調査期間：平成30年●月●日～平成31年●月●日

調査方法：メール等による配布・回収

有効回収数：336件

(3) アンケート調査結果

■美祢市のまちづくりの取組について、『満足度』と『重要度』の評価。

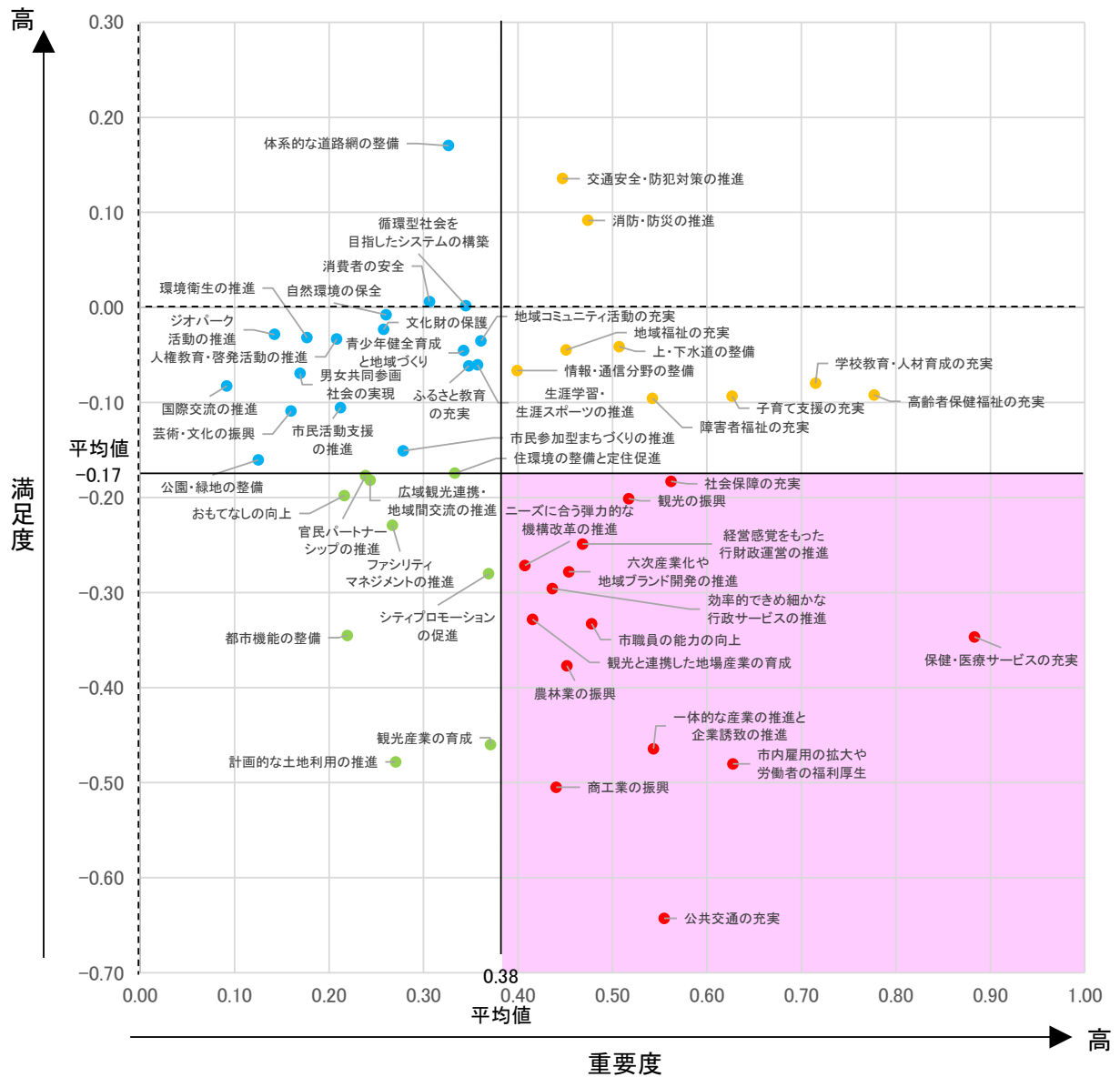
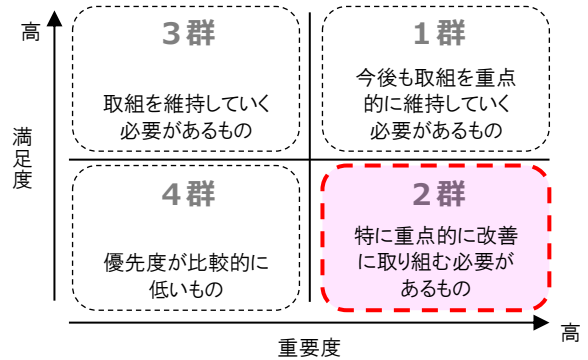
(それぞれ単数回答)

【CS分析の算出方法について】

満足度と重要度を相対的に比較しやすくするため、加重平均値(満足度・重要度平均)を算出している。

＜施策の満足度、重要度＞		
選択肢		点数
①満足	①高い	+2
②やや満足	②やや高い	+1
③ふつう	③ふつう	0
④やや不満	④やや低い	-1
⑤不満	⑤低い	-2
⑥無回答(不明)	⑥無回答(不明)	除外

【相関図の見方】



【満足度・重要度評価の詳細】

【3群】重要度は低いが満足度が高く、今後も取組を維持していく必要があるもの

項目	重要度	満足度
①安全・安心の確保のための取組	7. 体系的な道路網の整備	0.33 0.17
	12. 自然環境の保全	0.26 -0.01
	14. 公園・緑地の整備	0.13 -0.16
	17. 環境衛生の推進	0.18 -0.03
	18. 循環型社会を目指したシステムの構築	0.34 0.00
19. 消費者の安全	0.31 0.01	
②観光交流の促進のための取組	2. 国際交流の推進	0.09 -0.08
④ひとの育成のための取組	2. 生涯学習・生涯スポーツの推進	0.36 -0.06
	3. 青少年健全育成と地域づくり	0.34 -0.05
	4. ふるさと教育の充実	0.35 -0.06
	6. ジオパーク活動の推進	0.14 -0.03
	7. 芸術・文化の振興	0.16 -0.11
	8. 文化財の保護	0.26 -0.02
	9. 人権教育・啓発活動の推進	0.21 -0.03
⑤行財政運営の強化のための取組	6. 市民参加型まちづくりの推進	0.28 -0.15
	7. 市民活動支援の推進	0.21 -0.11

【1群】重要度も満足度も高く、今後も取組を重点的に維持していく必要があるもの

項目	重要度	満足度	
①安全・安心の確保のための取組	2. 高齢者保健福祉の充実	0.78 -0.09	
	3. 障害者福祉の充実	0.54 -0.10	
	4. 地域福祉の充実	0.45 -0.04	
	9. 上・下水道の整備	0.51 -0.04	
	11. 情報・通信分野の整備	0.40 -0.07	
	15. 消防・防災の推進	0.47 0.09	
	16. 交通安全・防犯対策の推進	0.45 0.14	
	④ひとの育成のための取組	1. 学校教育・人材育成の充実	0.72 -0.08
		5. 子育て支援の充実	0.63 -0.09

【2群】重要度は高いが満足度が低く、特に重点的に改善に取り組む必要があるもの

項目	重要度	満足度
①安全・安心の確保のための取組	1. 保健・医療サービスの充実	0.88 -0.35
	5. 社会保障の充実	0.56 -0.18
	10. 公共交通の充実	0.55 -0.64
②観光交流の促進のための取組	1. 観光の振興	0.52 -0.20
③産業の振興のための取組	1. 商工業の振興	0.44 -0.50
	2. 農林業の振興	0.45 -0.38
	3. 市内雇用の拡大や労働者の福利厚生	0.63 -0.48
	4. 一体的な産業の推進と企業誘致の推進	0.54 -0.46
	5. 観光と連携した地場産業の育成	0.42 -0.33
	6. 六次産業化や地域ブランド開発の推進	0.45 -0.28
⑤行財政運営の強化のための取組	1. 経営感覚をもった行財政運営の推進	0.47 -0.25
	2. ニーズに合う弾力的な機構改革の推進	0.41 -0.27
	3. 効率的できめ細かな行政サービスの推進	0.44 -0.30
	5. 市職員能力の向上	0.48 -0.33

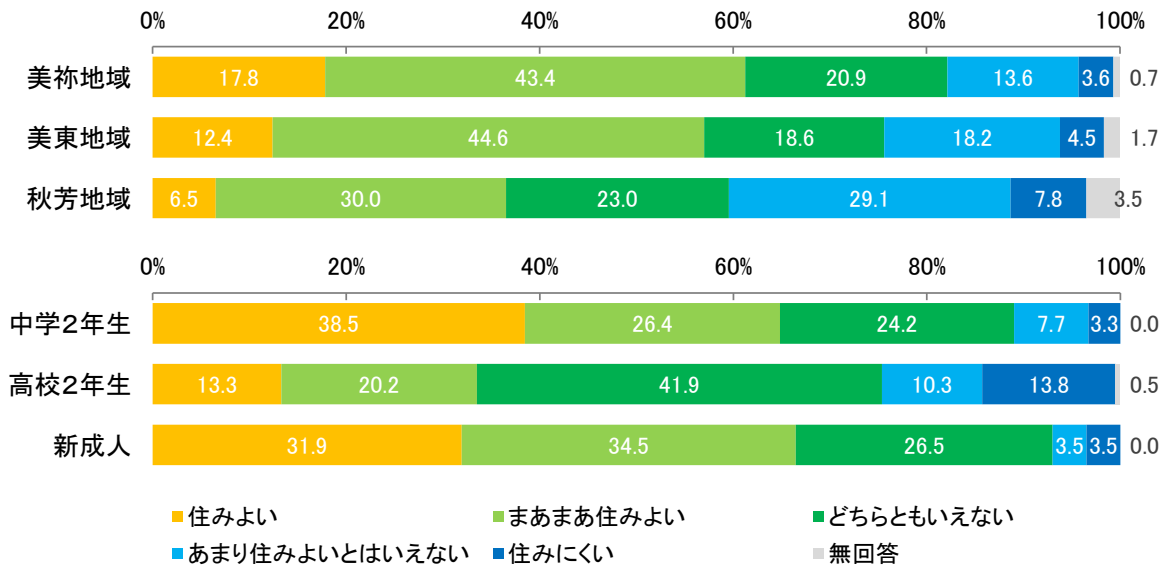
【4群】重要度も満足度も低く、優先度が比較的に低いもの

項目	重要度	満足度
①安全・安心の確保のための取組	6. 計画的な土地利用の推進	0.27 -0.48
	8. 都市機能の整備	0.22 -0.35
	13. 住環境の整備と定住促進	0.33 -0.17
②観光交流の促進のための取組	3. 広域観光連携・地域間交流の推進	0.24 -0.18
	4. 観光産業の育成	0.37 -0.46
⑤行財政運営の強化のための取組	4. おもてなしの向上	0.22 -0.20
	8. ファシリティマネジメントの推進	0.27 -0.23

■美祢市は住みよいまちだと感じていますか。(単数回答)

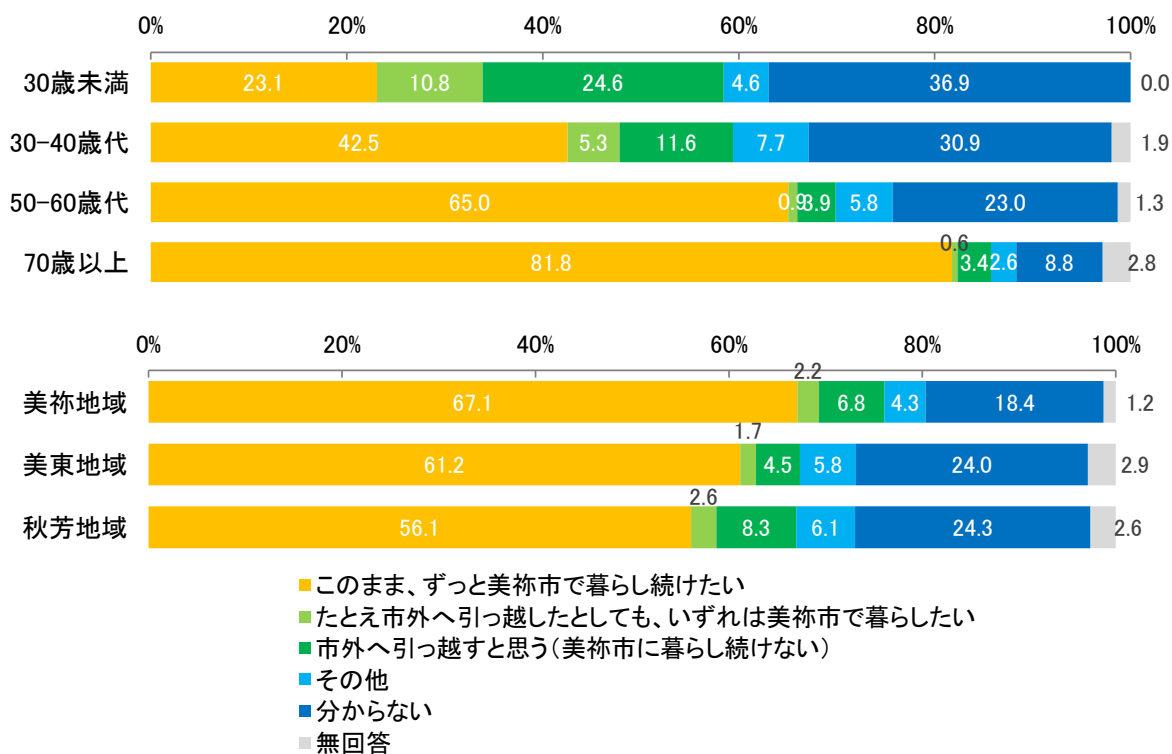
「住みよい」「まあまあ住みよい」を合わせてみると、市民アンケートの地域別では、美祢地域、美東地域、がが高く、個別アンケートでは、“中学2年生”、“新成人”で高くなっています。

一方で、市民アンケートでは、秋芳地域で極端に低く、“高校2年生”では特に低くなっています。



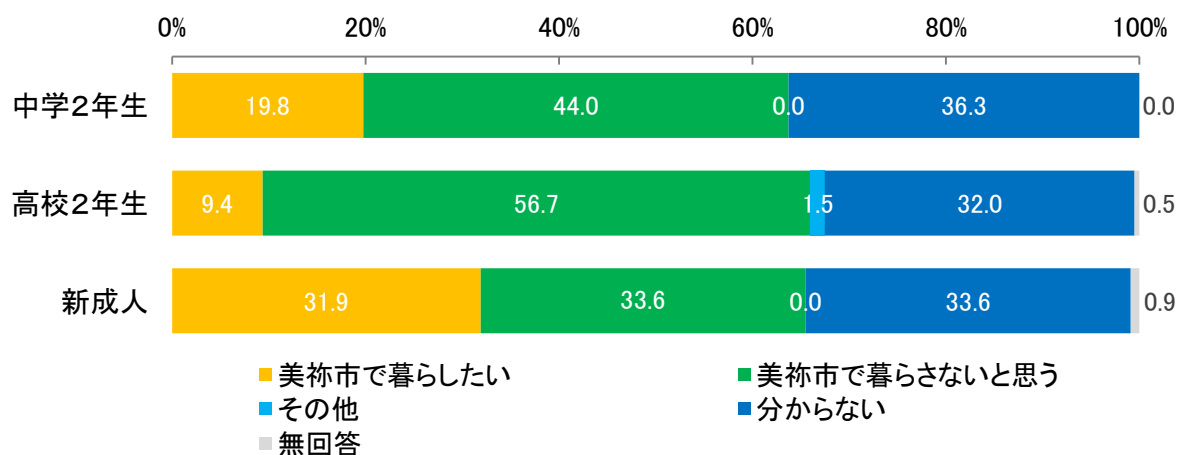
■ これからも美祢市で暮らし続けたいと思いますか。(単数回答)

50歳以上では、住み続けたい割合が年代毎に高まっていますが、50歳未満では暮らし続けたい割合が半数を割り込み30歳未満は極端に低い状況にあります。



■ 美祢市で暮らし続けたいと思いますか。(単数回答)

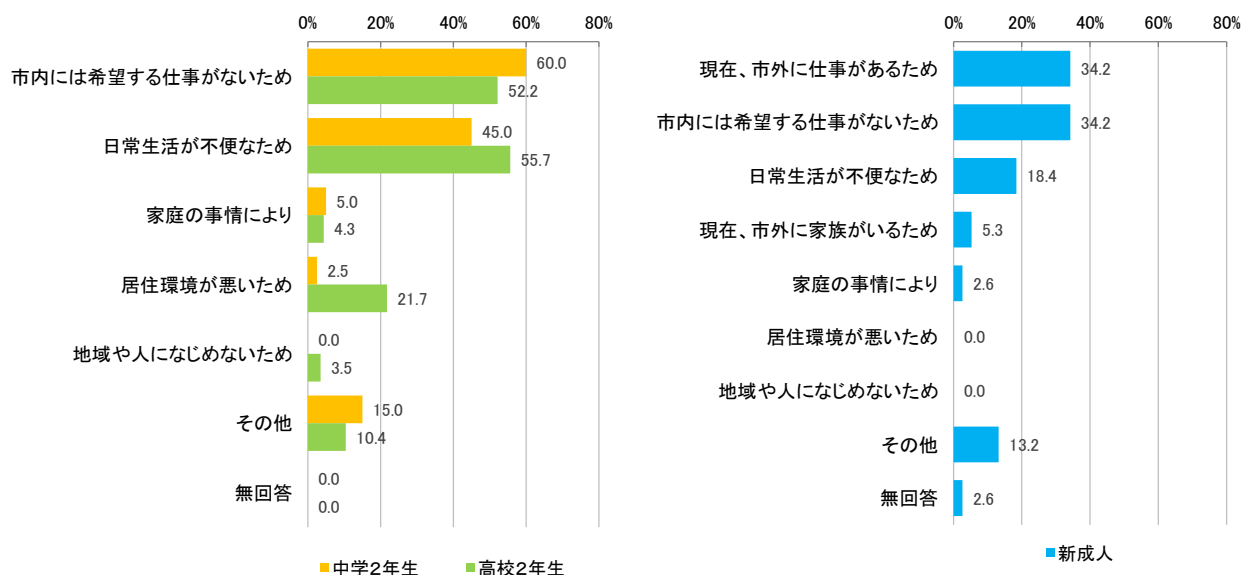
各年代において、「分からない」が3割を占めており、特に「高校2年生」では「美祢市で暮らさないと思う」が過半数を超えています。



■美祢市で暮らさないと考える理由はなんですか。(複数回答)

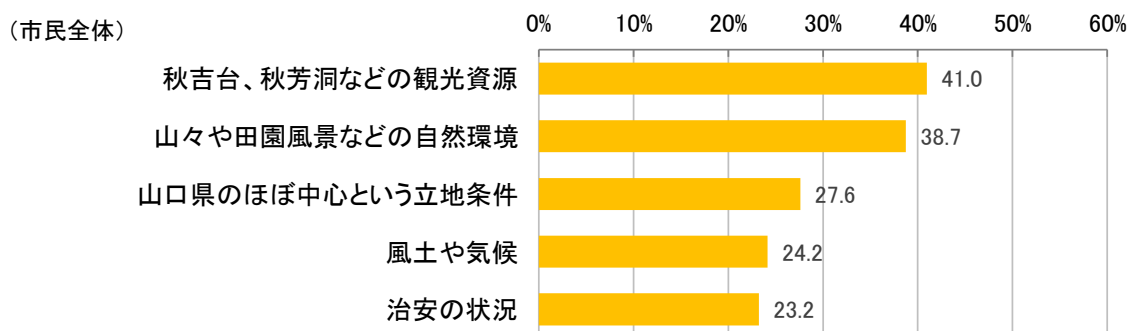
“中学2年生”では「市内には希望する仕事がないため」が高くなっており、“高校2年生”では「日常生活が不便なため」が高くなっています。

“新成人”では「現在、市外に仕事があるため」と「市内には希望する仕事がないため」が最も高くなっています。



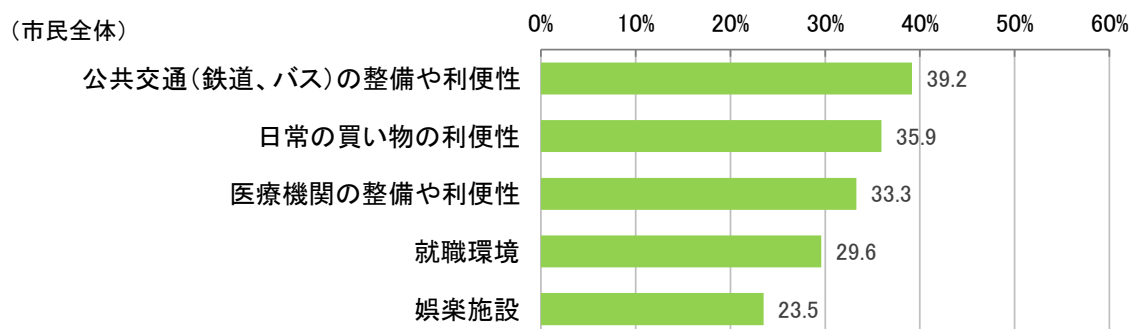
■美祢市の自慢（良い所）。(複数回答)

「秋吉台、秋芳洞などの観光資源」「山々や田園風景などの自然環境」が特に高くなっています。



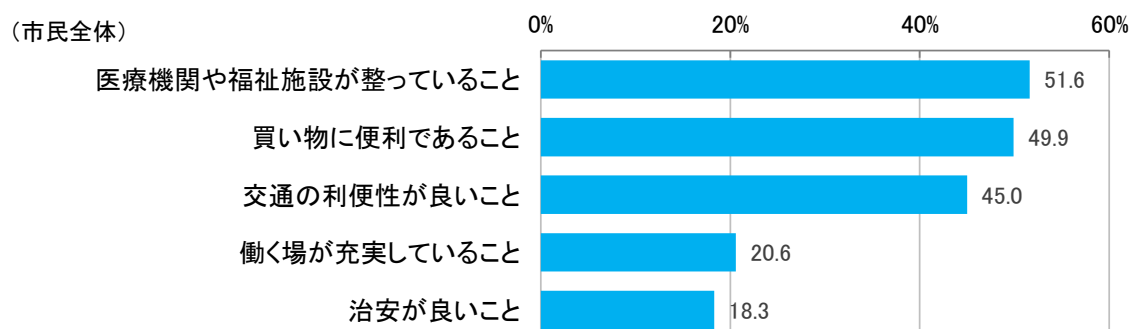
■美祢市の不満（悪い所）。（複数回答）

「公共交通（鉄道、バス）の整備や利便性」が最も高くなっており、次いで、「日常の買い物の利便性」「医療機関の整備や利便性」が続いています。



■美祢市で暮らすために、特に必要なこと。（複数回答）

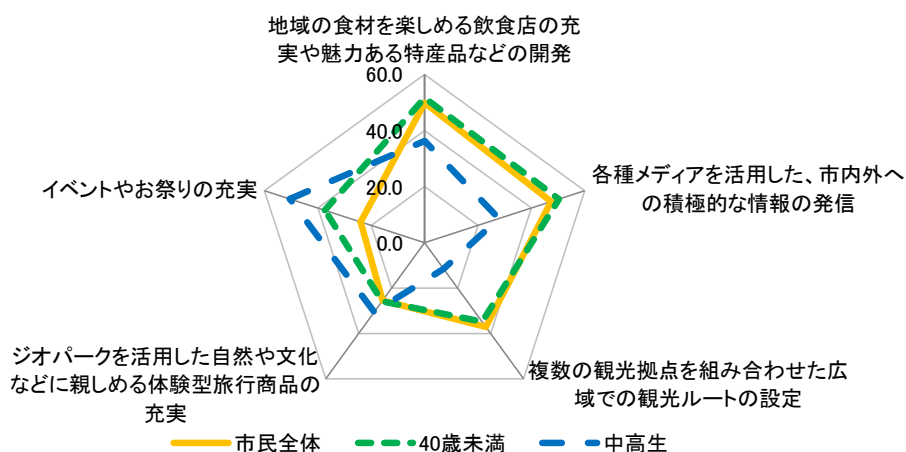
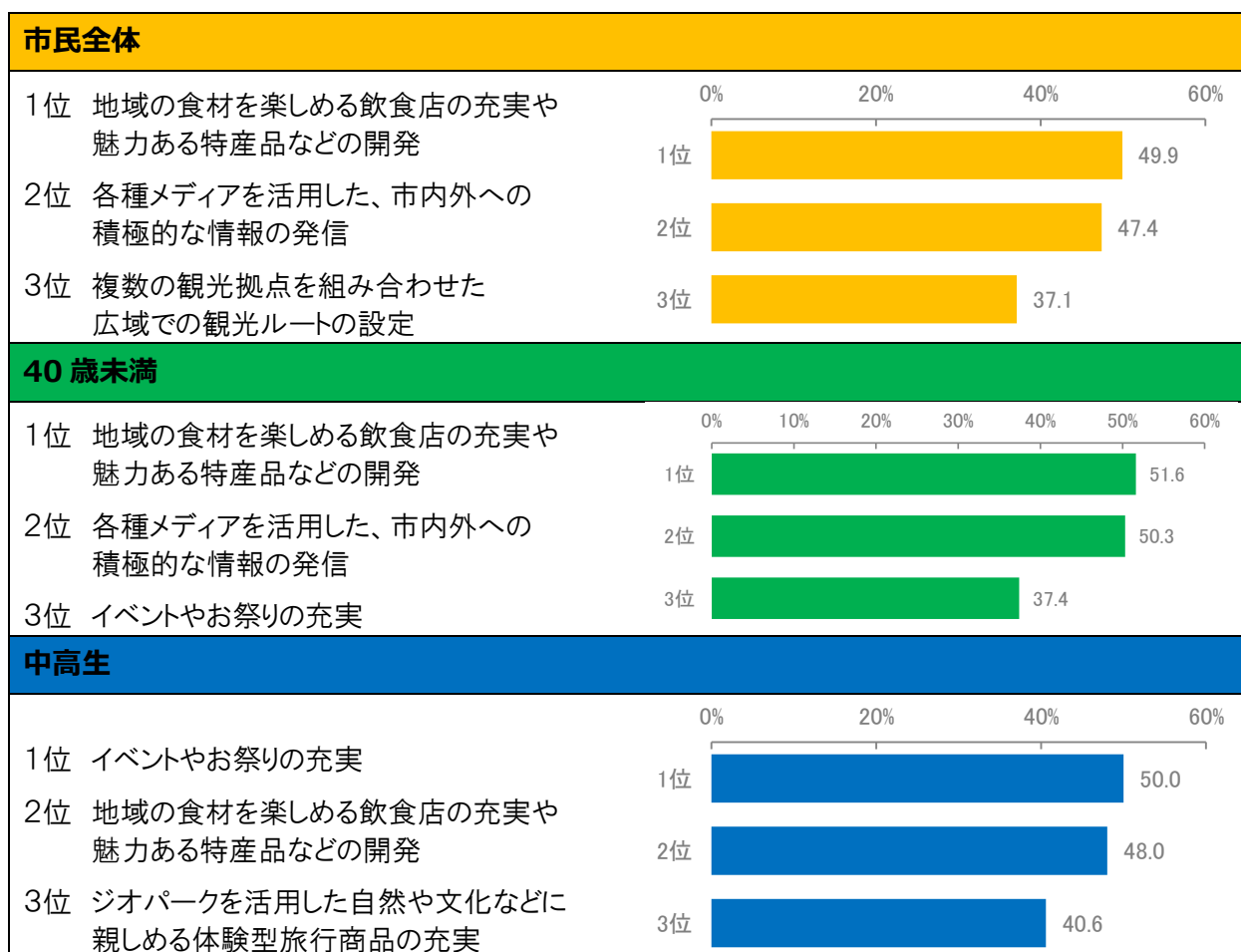
「医療機関や福祉施設が整っていること」「買い物に便利であること」「交通の利便性が良いこと」が特に高くなっています。



■観光の活性化のために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

ほとんどの対象で「地域の食材を楽しめる飲食店の充実や魅力ある特産品などの開発」が最も高くなっています。“中高生”では「イベントやお祭りの充実」「ジオパークを活用した自然や文化などに親しめる体験型旅行商品の充実」が上位にあがっています。

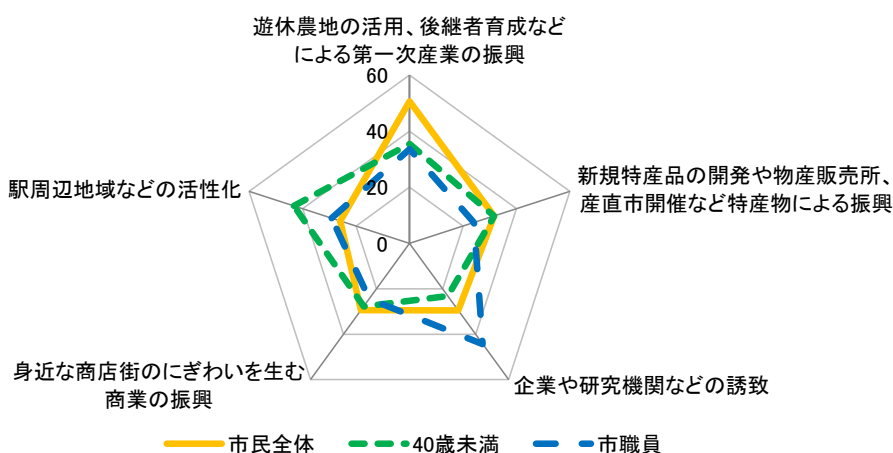
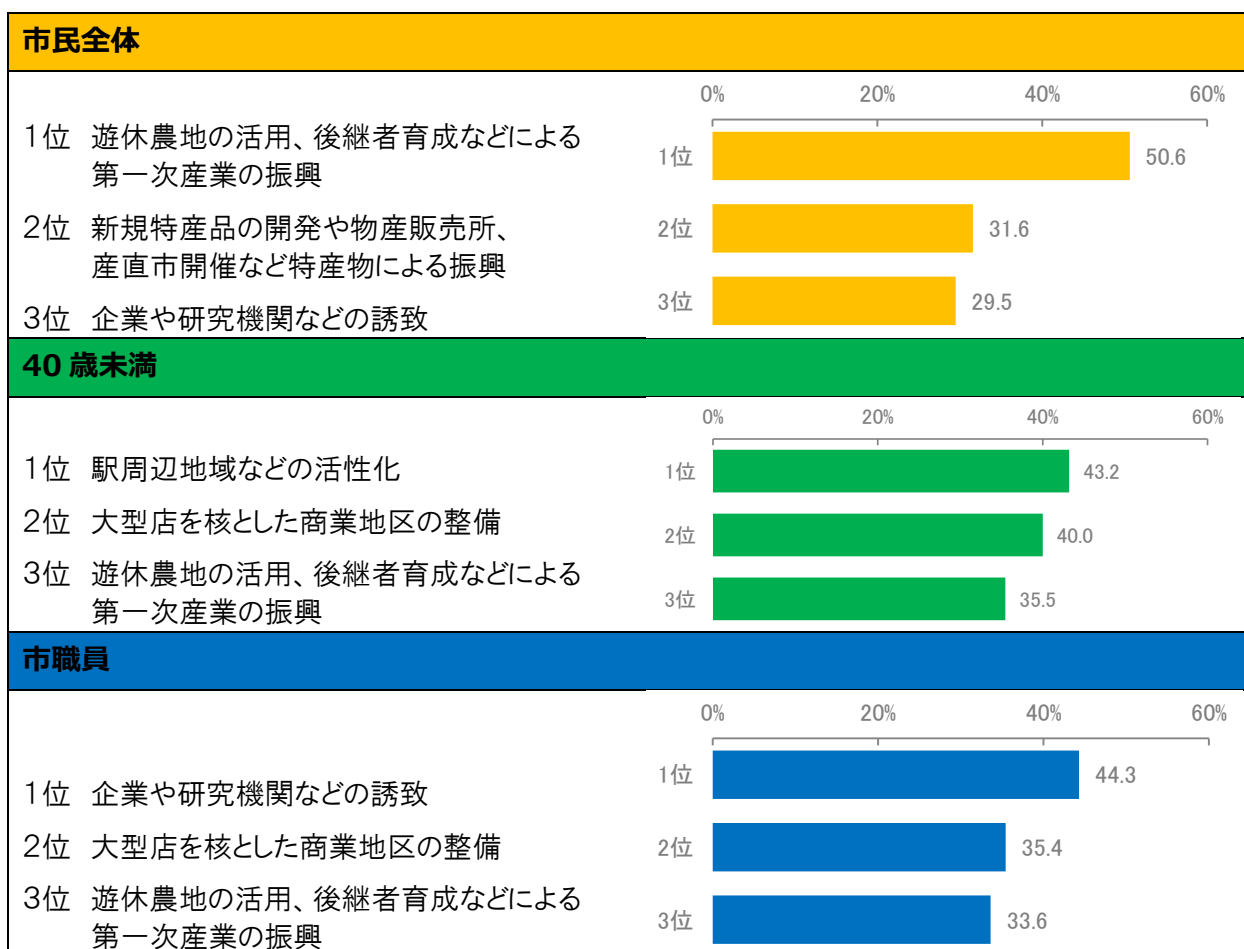
それぞれの割合を比べると、“市民全体”に比べて、“40歳未満”では「イベントやお祭りの充実」が高くなっており、“中高生”ではさらに高くなっています。



■ 産業の振興のために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

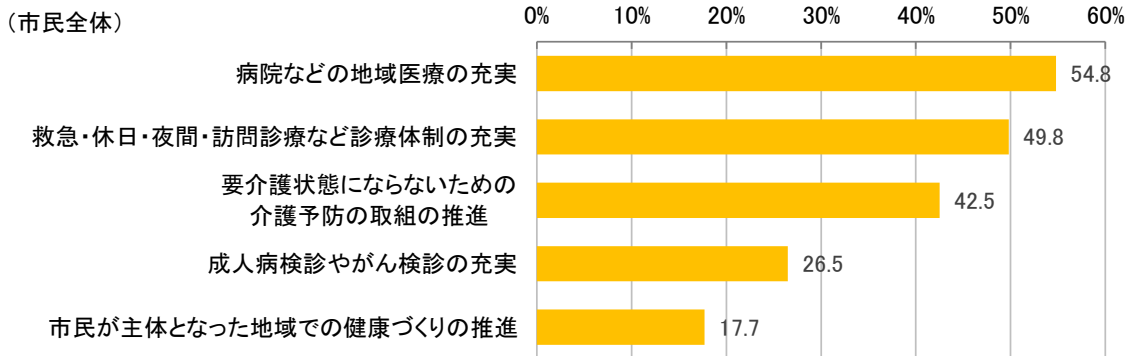
ほとんどの対象で「遊休農地の活用、後継者育成などによる第一次産業の振興」が上位にあがっています。“40歳未満”の比較的年代の若い方は「駅周辺地域などの活性化」「大型店を核とした商業地区の整備」が上位にあり、商業の活性化の要望が強い傾向にあります。

それぞれの割合を比べると、“40歳未満”では「駅周辺地域などの活性化」、「市職員」では「企業や研究機関などの誘致」が比較的高くなっています。



■ 健康づくりのために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

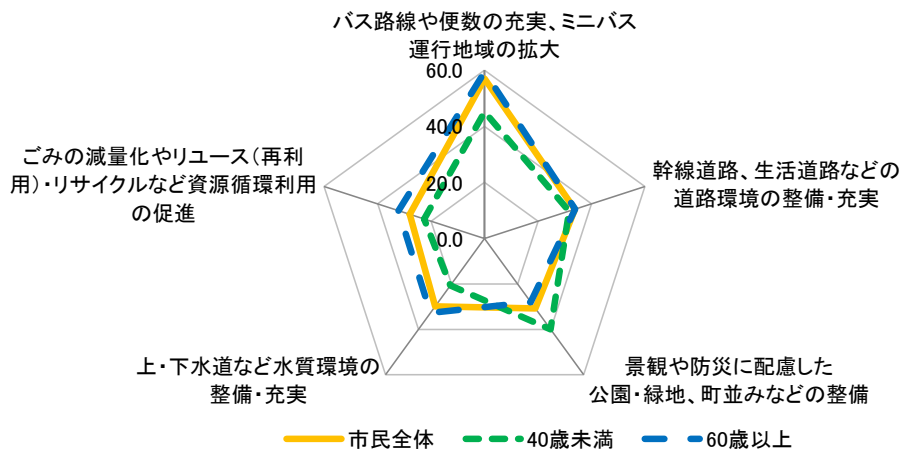
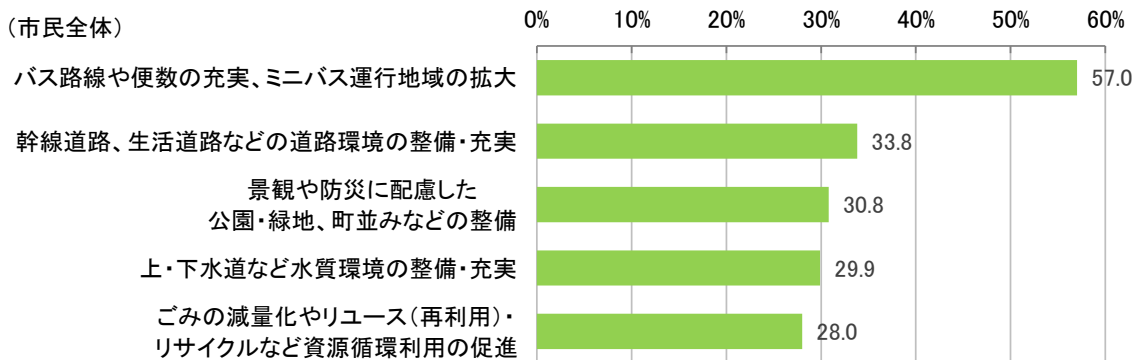
「病院などの地域医療の充実」が最も高くなっています。年代等で比較しても同様の傾向がみられます。



■ 生活環境の充実のために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

「バス路線や便数の充実、ミニバス運行地域の拡大」が最も高くなっています。2位以下と比較しても突出しています。

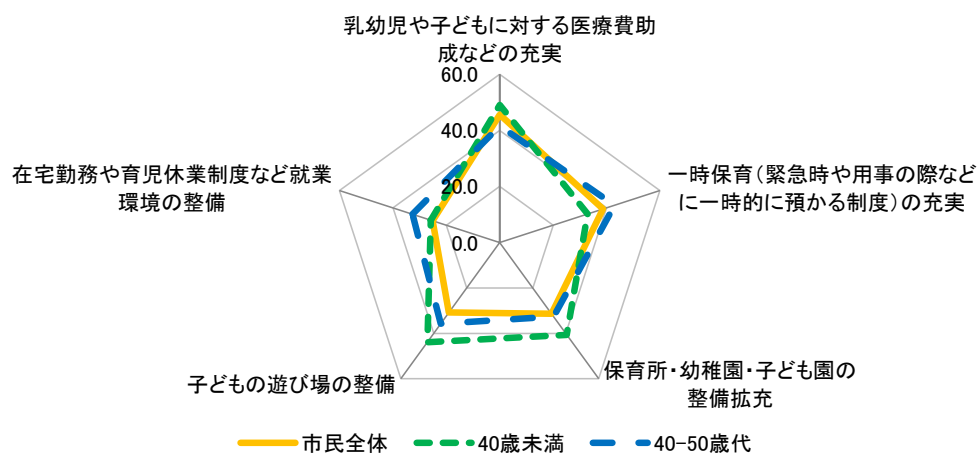
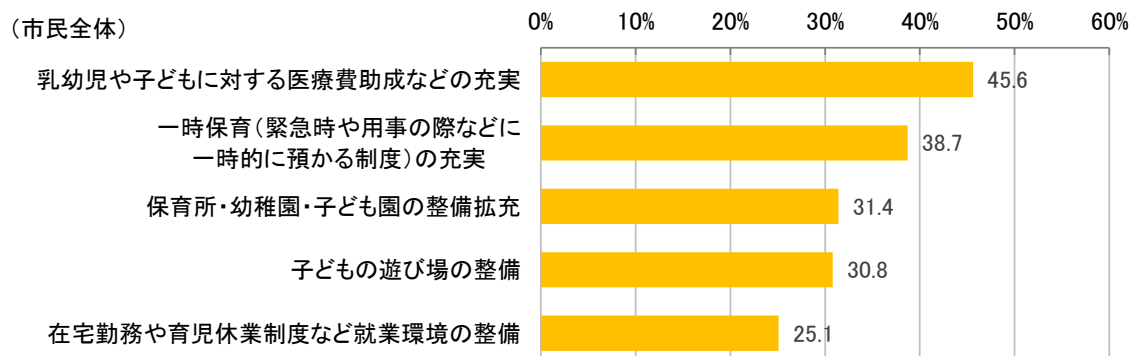
分類ごとに割合を比べると、「40歳未満」では比較的「景観や防災に配慮した公園・緑地、町並みなどの整備」が高くなっています。



■子育ての充実のために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

「乳幼児や子どもに対する医療費助成などの充実」が最も高くなっています。次いで、「一時保育(緊急時や用事の際などに一時的に預かる制度)の充実」が続いています。

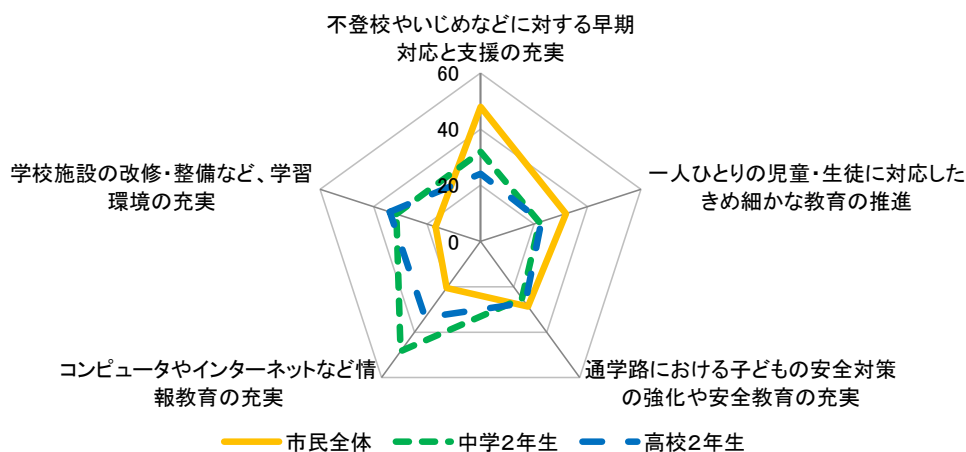
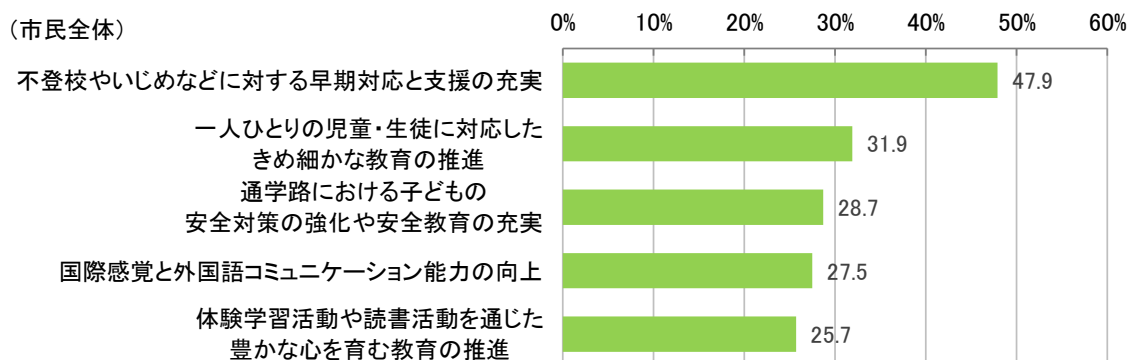
分類ごとに割合を比べると、“40歳未満”では「保育所・幼稚園・子ども園の整備拡充」「子どもの遊び場の整備」が比較的高くなっています。



■ 学校教育振興の充実のために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

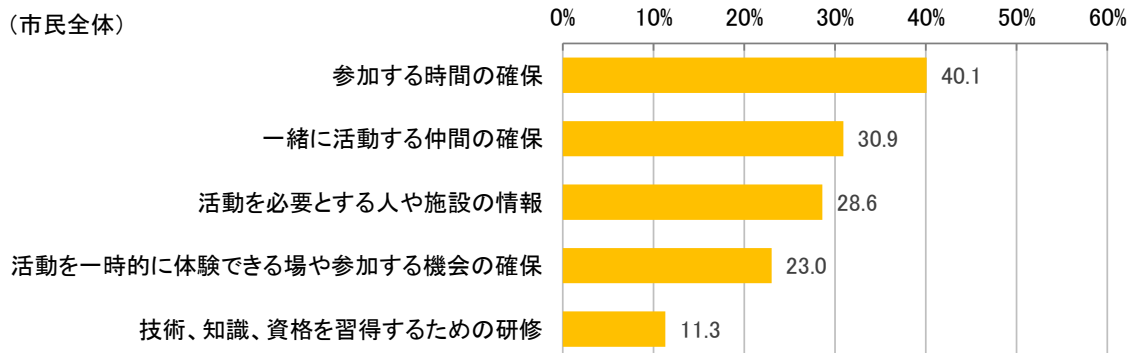
「不登校やいじめなどに対する早期対応と支援の充実」が最も高くなっています。次いで、「一人ひとりの児童・生徒に対応したきめ細かな教育の推進」が続いています。

分類ごとに割合を比べると、“中高生”では「コンピュータやインターネットなど情報教育の充実」「学校施設の改修・整備など、学習環境の充実」が比較的高くなっており、“中学2年生”では、特に「コンピュータやインターネットなど情報教育の充実」が高くなっています。



■ 市民活動や協働でのまちづくりに参加しやすくなるためには何が必要だと思いますか。(複数回答)

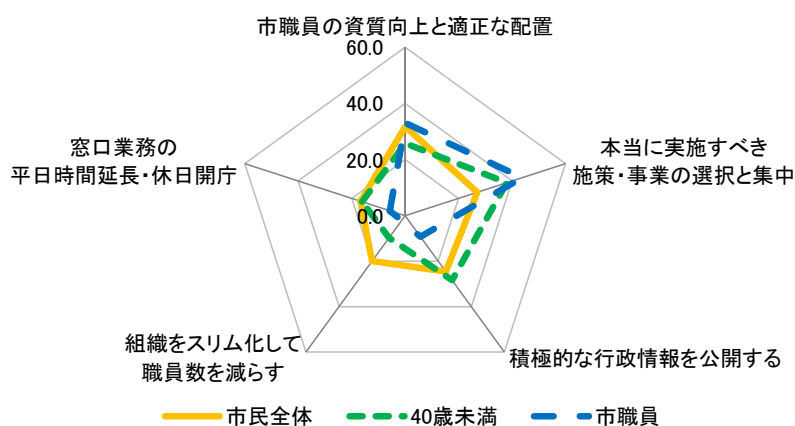
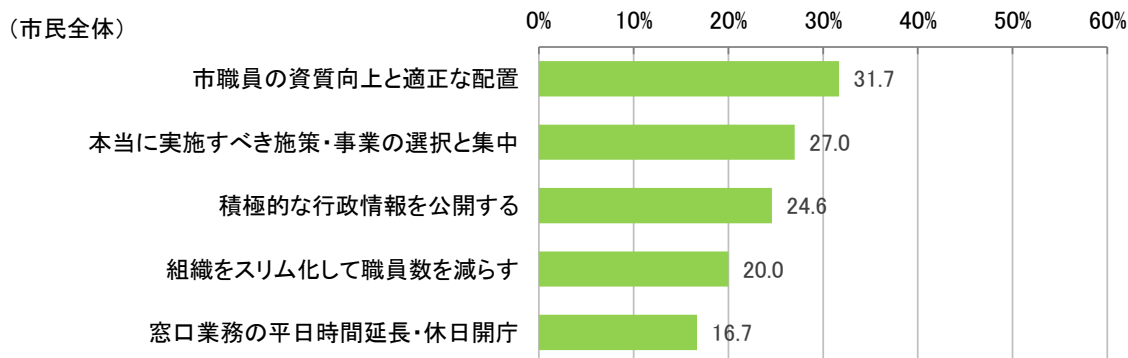
「参加する時間の確保」が最も高くなっています。次いで、「一緒に活動する仲間の確保」が続いています。



■ より良い行財政運営のために市が力をいれるべきこと。(複数回答)

「市職員の資質向上と適正な配置」が最も高くなっています。次いで、「本当に実施すべき施策・事業の選択と集中」が続いています。

分類ごとに割合を比べると、“40歳未満”や“市職員”では「本当に実施すべき施策・事業の選択と集中」が比較的高くなっており、“市職員”では「積極的な行政情報を公開する」「組織をスリム化して職員数を減らす」「窓口業務の平日時間延長・休日開庁」が特に低くなっています。



第2章 基本構想

1. 計画の構成

(1) 計画の名称

(2) 計画の構成と期間

2. 新しいまちの目標

(1) 将来像

(2) 基本理念

(3) 基本目標

将来像を実現するため、基本理念に基づき、まちづくりの目標として6つの基本目標を設定します。

- ① **安全・安心な「まちづくり」**
- ② **「魅力の創出・交流」の拡大**
- ③ **強みを活かした「産業の振興」**
- ④ **市の宝となる「ひとの育成」**
- ⑤ **「行財政運営」の強化**

基本目標 1 : 安全・安心な「まちづくり」

今後、後期高齢者の割合が増加し、医療・福祉・介護の需要が大きくなるものと見込まれます。

一方で、少子化が進む中、医療・福祉・介護を担う人材の確保が大きな課題となっており、保険制度の安定した運営、維持を図るため、市民一人ひとりの健康意識、QOL※の向上による健康増進、求められる医療の体制構築を図ります。

高齢者や障害者などの支援が必要な人への対応するための「地域共生社会」の実現に向け、地域づくりと一体になった地域包括ケアシステムの構築を推し進めます。

また、人口減少とともに近年課題である空家対策や景観保持に一体的に取り組み、住みよい環境を通じて、定住と移住促進など、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

近年、風水害や地震などの災害対策が全国的に課題となる中、本市においても災害に強く、なおかつ安全で快適に過ごせる都市の基盤づくりは大きな目標となります。

暮らしの安全確保、地域公共交通の充実を図り、利便性の確保と都市拠点機能の集約によるまちのにぎわいを創出し、拠点ネットワークが支える計画的なまちづくりを推進します。

また、公共施設の老朽化対策をはじめ、有線・無線ネットワーク回線のなどの生活インフラの充実を図るとともに、環境面でのゴミのリサイクルや省エネルギー対策などに率先して取り組みます。

地域防災計画をはじめとした防災・減災の対策・体制を構築するとともに、地域の安全・安心のための取組を進めます。

【基本方針】

1. 健康の維持と福祉・医療サービスの充実
2. 誰もが快適に暮らせるまちづくり
3. 安全なネットワークによる都市基盤づくり

※QOL:(クオリティ・オブ・ライフの略)

病気を治療することだけでなく、前向きな気持ちで日々暮らしていけるよう、生活の質を高めることを指します。

基本目標 2 : 「魅力の創出・交流」の拡大

秋吉台・秋芳洞をはじめとした本市の強みである観光資源をさらに市民の誇りとするため、新たな活用と地域と一体となった取り組みにより本市の魅力を最大限に高め、県内外・都市圏等への発信を強化し、魅力の創出と交流・関係の拡大を目指します。

市民によるおもてなしに磨きをかけ、官民一体となった食の開発と提供など、観光を中心とした産業の育成により発信力を高めます。さらには、本市が誇る自然・文化財の保全と活用を図り、交流者にその魅力が伝わる活用を地域とともに推し進め、交流によるひとの関係づくりを促進させます。

【基本方針】

1. 観光の振興と魅力の創出
2. 交流・関係の拡大と発信の強化
3. 自然・文化の保護と活用

基本目標 3 : 強みを活かした「産業の振興」

市の活性化には、産業の振興、仕事づくりは非常に重要であり、定住対策につながります。

本市特有の魅力的な産業を創出するため、第一次産業から第六次産業まで戦略的に推し進め、若者・女性が活躍する活力ある産業を目指し、新たな雇用や新規参入などを促進します。

農林水産業では、資源を有効に活用し所得の向上を図るとともに、担い手・後継者の育成を図ります。商工業では、“Mine Collection”の振興を図るほか、地場産業の育成や付加価値の向上など、地域内連携を図り一体的な取り組みを推進します。

また、豊かな水資源や立地条件、有効的な土地の利活用を PR し、企業誘致や起業の促進などに取り組みます。

【基本方針】

1. 特色を打ち出した農林水産業の振興
2. 商工業の振興と企業誘致の促進
3. 魅力産業の振興と地域内経済の活性化

基本目標 4 : 市の宝となる「ひとの育成」

全国的に少子高齢化と人口減少が進む中、将来の地域を担う人づくりは、重要な取組となります。

少子化対策を重点に、本市で子どもを産み育てるための総合的な環境整備を行います。

次に、次世代を育む教育環境の充実を図るため、多様な学びの手法・機会を創出し、求められる人材像への育成を行うほか、地域や大学との連携によるふるさと学習など、本市への誇りを醸成します。

更には、芸術・歴史・文化の振興による学びの場やスポーツ活動を振興し、若者から、女性、高齢者まで全世代が活躍できる地域の担い手の育成と生涯学習を推進します。

外国人観光客や海外からの労働力の受け入れが増加していく中、多文化と触れ合い、共生する時代となることから、多様な価値観を認め合い、ともに手を取り合える共生社会の実現を目指します。

【基本方針】

1. 健やかに子どもを産み育てられる環境づくり
2. 生きる力を高め、将来を担う人づくり
3. 生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり
4. 互いに認め支え合えるまちづくり

基本目標 5 : 「行財政運営」の強化

安定した行財政運営と持続可能なまちづくり、市民サービスの一層の確保に向けて積極的な行政改革を推進します。特に、行政だけですべてを担う時代から、民間活力の活用、地域力の向上を図るなど、産学官民の協働による運営を行う時代へ転換を進め、市民サービスの向上及び持続可能なまちづくりを目指し、スマート自治体を推進します。そのため、人材育成と弾力的な機構改革、情報通信技術の活用により行政サービスの進化を図ります。さらには、市民、民間などの多様な主体が参画し協働のまちづくりを進めるため、まちの現状、課題、取組を積極的に広報し、情報発信に努めます。

【基本方針】

1. 効率的・効果的な行財政運営
2. 市民が主体の協働のまちづくり
3. 市内外への情報発信

(4) まち・ひと・しごと創生総合戦略

将来像を実現するため、基本理念に基づく中、特に人口減少の抑制と地方創生によるまちづくりを積極的に展開させるため、5つの重点戦略を設定します。

- ① 「働きたい！」希望を実現させる魅力産業の創出
- ② 「結婚・産み育てたい！」願いが叶う環境の充実
- ③ 「訪れたい、参加したい、住んでみたい！」MINEの発信と交流の強化
- ④ 「ずっと住み続けたい！」安心を提供する暮らしの向上
- ⑤ 「個性豊かな地区づくり」プロジェクト

基本目標1：「働きたい！」希望を実現させる魅力産業の創出

「雇用の創出」は、若者や女性の定住、地域活力の向上に不可欠な優先課題です。

本市では、市全体が Mine 秋吉台ジオパークであり、秋吉台・秋芳洞など観光資源の新たな活用を図り、観光産業を中心とした魅力的な産業を創出していくことが重点となります。

観光と密接な関係がある「第一次産業の振興」は、食の振興、地産外商、サービス産業の展開や六次産業へつながるなど、他産業への波及効果が高いことから高付加価値化による「儲かる産業」への育成に向け、戦略的な振興に取り組めます。

また、商工業の活性化に向け、起業の促進、事業承継、ビジネスマッチングなど新たな展開や情報通信技術の活用、イノベーションによる新たな働く場や市場の開発を支援します。

【展開すべき施策】

1. 観光資源を活かした産業と雇用の創出
2. 食に深く関わる農林資源の高付加価値化
3. 商工業等の多様な雇用の場づくりとイノベーションの創出

基本目標 2 : 「結婚・産み育てたい！」願いが叶う環境の充実

本市での一年間の子どもの出生数は 100 人を割り込むことが現実化しています。

若者や女性の定住環境を整え、本市での結婚が可能な施策の構築と展開を図ります。

次世代を生み、育むことは地域社会の維持に最も重要な取組です。いわゆる婚活、妊活から出産、子育てまでを包括的に支援する「美祢市版ネウボラ」の構築を図り、子育て支援サービスの充実に向けた環境整備に積極的に取り組みます。

児童・生徒の教育においては、教育環境の充実のため、ふるさと学習やジオパーク学習を進め、他方、英語教育による国際感覚溢れる人材育成やICT等を活用した情報活用教育に取り組むなど、幼稚園・保育園から高等学校まで、魅力的で保護者や子どもから選ばれる教育環境の充実を推し進めます。

【展開すべき施策】

1. 結婚・出産できる環境づくり
2. 子育てサポートの充実
3. 選ばれる教育環境の充実

基本目標 3 : 「訪れたい、参加したい、住んでみたい！」MINEの発信と交流の強化

新たな人の流れを生み出すために、交流人口の拡大を図り、関係人口の創出からネットワークと支援の輪を拡げ、将来的な移住者の確保のために定住環境を高めます。

特に、観光や産業における本市の強みと都市圏などの要望のマッチングを促進するため、スポーツ・アウトドアの振興、農業や田舎体験などの地域交流を促進し、交流人口の拡大と関係人口づくりを行います。

また、ブランド産品を磨き地産外商や食の提供により発信力を高め、本市を応援するファンやリピーターを増加させます。併せて、地域力を高め、地域自らの発信力の育成を行います。

【展開すべき施策】

1. 交流人口の拡大と発信力の強化
2. 関係人口のネットワーク構築と体制支援の推進
3. 移住・定住者に選ばれる環境整備の促進

基本目標4：「ずっと住みたい！」安心を提供する暮らしの向上

安全・安心な暮らしについて、災害対策への関心が高くなっており、災害に強いまちづくりやインフラ整備を重点的に進める必要があります。

また、集約型都市機能の構造化を進め多様なネットワークにより、本市に住みながら、利便性の高い多様な豊かさを享受できる都市拠点と地域拠点の整備を推し進めます。地域の医療、健康な暮らしを守るため、地域福祉を充実させると共に、地域協働を中心としたコミュニティの構築強化を促進し、住んでみたい、住み続けたいまちの創造を図ります。

【展開すべき施策】

1. 安全・安心なまちづくりの推進
2. 住み続けられる協働とコミュニティの強化

基本目標5：「個性豊かな地区づくり」プロジェクト

本市は市街地、農村、カルスト台地など、様々な個性を持った地域が一体となって形づくられています。それぞれの地域の特徴を最大限活かし、各地域の住民自らが地域の将来を考え、若者、女性から高齢者まで、多世代が活躍し地域を振興する個性豊かな地区づくりプロジェクトの創造を支援します。

【展開すべき施策】

1. 美祢地域の地区づくり
2. 秋芳地域の地区づくり
3. 美東地域の地区づくり

(5) 施策大綱

3. 土地利用構想

(1) 将来都市構造

(2) 拠点の構成

(3) 軸・ゾーンの構成